

NEWS



リウマチ

Newsletter of Japan College of Rheumatology

2004. No.

4

December

有限責任中間法人

日本リウマチ学会

LETTER



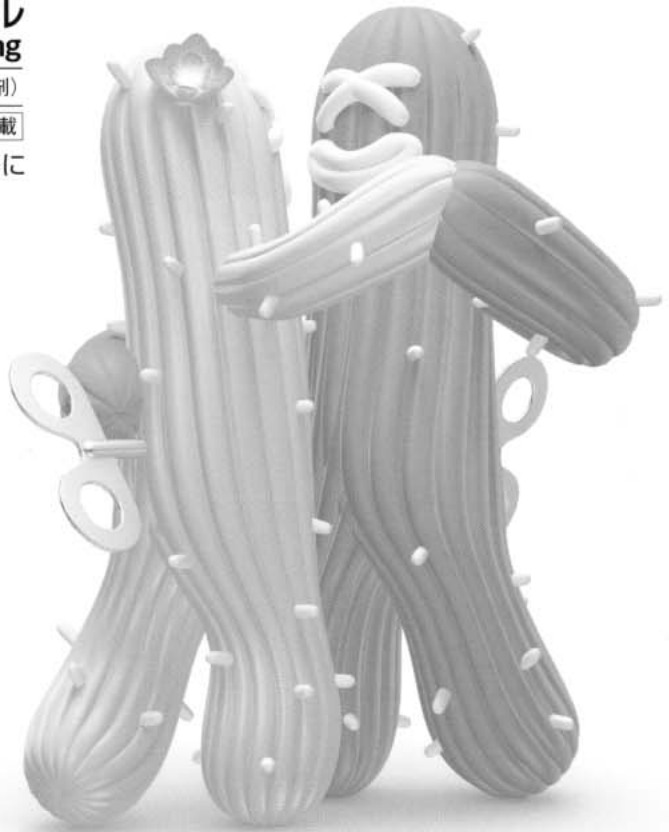
非ステロイド性消炎・鎮痛剤 劇薬、指定医薬品

モービック®カプセル
5mg・10mg

Mobic® Capsules 5mg・10mg (メロキシカム製剤)

薬価基準収載

※効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等については添付文書等をご覧ください。



発売元



第一製薬株式会社

資料請求先
〒103-8234 東京都中央区日本橋三丁目14番10号
ホームページアドレス
<http://www.daiichipharm.co.jp/>

製造元



Boehringer
Ingelheim

日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社
〒666-0193 兵庫県川西市矢間3-10-1

オ4

体外診断用医薬品

リウマチの新しい見方

マトリックスメタロプロテイナーゼ-3

MMP-3

関節滑膜の活動性把握に血清MMP-3

血清MMP-3

関節滑膜の増殖

X線写真

骨の破壊

リウマトイド因子
抗ガラクトース欠損IgG抗体等

免疫学的異常

CRP、赤沈等
全身の炎症

健保適用

パナクリア® MMP-3「ラテックス」

血清中マトリックスメタロプロテイナーゼ-3測定用

販売元



第一化学薬品株式会社

〒103-0027 東京都中央区日本橋三丁目13番5号

製造元



第一ファインケミカル株式会社



橋本 博史
順天堂大学膠原病内科 教授

臨床研修必修化とリウマチ専門医

このたび、情報化委員会より巻頭言の執筆の依頼があり、今年より新しくスタートした臨床研修制度が少なからずリウマチ専門医制度に影響すると考え、専門医資格認定委員会委員の立場から筆を執った。

新しい臨床研修制度は、従来の主に大学病院における診療科ないし講座を中心とする研修から、専門領域にとらわれず基本的な診療能力を修得するための研修へと変革し、プライマリ・ケアに対処できる医師の育成を基本としている。少なくとも2年間は、従来のように積極的に研修医に働きかけてリウマチ・膠原病の専攻（または入局）を勧める機会は少なくなったと考えられる。臨床研修終了後は、おそらく、医療機関では基本領域（内科、小児科、整形外科など）の研修をふまえた公募となり、研修終了者は種々の情報をもとに希望する領域を選択すると思われる。リウマチ・膠原病の分野を視野に入れた時、受け入れる医療機関は基本領域の研修カリキュラムの選択肢を出来る限り多くし、情報提供は目につきやすく魅力あるものが望まれる。

将来の日本におけるリウマチ学の発展を考えると、一人でも多くのリウマチ専門医の育成が必須である。そのためには研修医のみならず医学生にもリウマチ・膠原病に関心を持ってもらうことが大切で、そのための啓発活動が必要である。すなわち、リウマチ・膠原病の分野を専攻する意欲に駆り立てる動機付けの情報を常に提供し続けることが必要で、その発信を担う（中）日本リウマチ学会と情報化委員会の役割はきわめて重要であると考え。例えば、学会期間中を問わず、医学生や研修医を対象とした魅力あるテーマのセミナーや公開講座を常時開催することも一つの方法で、自由に参加できることが望ましい。

現在、（中）日本リウマチ学会では、リウマチ研修の可能な教育施設を認定し、専門医研修カリキュラムを作成しているが、教育施設においては一つの施設ですべての分野が研修できるとは限らない。すべての分野が網羅されている医育機関が望まれるが、現存する教育研修施設においても他施設との協同により総合的な研修が可能と考えられ、今後検討されるべき課題である。

新しい臨床研修必修化制度は、これからのリウマチ・膠原病の臨床研修やリウマチ専門医制度に少なからず影響すると考えられ、今後の見通しとそれに対する適切な対応が望まれる。

JCR 2005

2005年4月17日(日)～20日(水)

第49回 日本リウマチ学会総会・学術集会 第14回 国際リウマチシンポジウム

会議の目的と開催意義

国際的3極構造の構築を目指して

○(中)日本リウマチ学会(JCR)が、アメリカリウマチ学会(ACR)、欧州リウマチ学会(EULAR)とともに国際的三極構造の一角を担うべき基盤形成を行う。

○APLAR圏の諸国と緊密な関係を保ちながら、アジア太平洋地域でのリウマチ性疾患の教育・研究・情報の拠点形成を推し進める。

○ACR、EULARと共通のステージで国際的に情報発信を行う。

会議の名称 第49回日本リウマチ学会総会・学術集会
第14回国際リウマチシンポジウム
主催 聖マリアンナ医科大学教授
難病治療研究センター長 西岡 久寿樹
会場 パシフィコ横浜
〒220-0012
神奈川県横浜市西区みなとみらい1-1-1

学術プログラム

プレナリー	(4演題×1セッション×2日間+3演題×1セッション×1日=11演題)
シンポジウム	(5演題×5セッション×3日間=75演題)
国際シンポジウム	(6演題×2セッション×2日間+6演題×1セッション×1日=30演題)
口演ワークショップ	(4演題×10セッション×3日間=120演題)
ポスターセッション	(120演題×2回×3日間=720演題)
Total	956演題(予定)
参加者数(予定)	約8,000名(延べ人数) 内外国人500名

第49回日本リウマチ学会総会・学術集会プログラム委員会

委員長	山本 一彦先生	東京大学医学部 アレルギーリウマチ内科
副委員長	田中 栄先生	東京大学医学部 整形外科
	中島 利博先生	聖マリアンナ医科大学 難病治療研究センター
委員	川合 眞一先生	東邦大学医学部附属大森病院 膠原病科
	宮坂 信之先生	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 膠原病・リウマチ内科学
	小池 隆夫先生	北海道大学 第二内科
	住田 孝之先生	筑波大学臨床医学系内科 膠原病・リウマチアレルギー
	横田 俊平先生	横浜市立大学 小児科学
	龍 順之助先生	日本大学医学部 整形外科

中村 耕三先生 東京大学医学部 整形外科
中村 利孝先生 産業医科大学 整形外科
中村 孝志先生 京都大学医学部 整形外科
吉川 秀樹先生 大阪大学 整形外科
能勢 眞人先生 愛媛大学医学部 病理学第二

アニュアルコースレクチャー

—リウマチ性疾患・膠原病治療の最前線—

※アニュアルコースレクチャーを受講すると、リウマチ専門医の5単位を取得可能。

演者一覧

山本 一彦 Kazuhiko Yamamoto
「関節リウマチの診療ガイドライン」
Management Guideline of rheumatoid arthritis
東京大学医学部アレルギーリウマチ内科 University of Tokyo

小池 隆夫 Takao Koike
「SLEの最新の治療」
Update of treatment for systemic lupus erythematosus
北海道大学大学院医学研究科 病態内科学講座・第二内科
Hokkaido University

尾崎 承一 Shoichi Ozaki
「血管炎症候群の最新の治療」
Update of treatment for vasculitis syndrome
聖マリアンナ医科大学 リウマチ・膠原病アレルギー内科
St. Marianna University school of Medicine

林 泰史 Yasufumi Hayashi
「骨粗鬆症治療の変遷」
Progress in Management and treatment of osteoporosis
東京都老人医療センター
Tokyo Metropolitan Geriatric Medical Center

中村 孝志 Takashi Nakamura
「人工関節の進歩(仮題)」 Progress of arthroplasty
京都大学医学部 整形外科 京都 University

中村 耕三 Kozo Nakamura
「変形性関節症の病態と治療」
Pathogenesis and treatment of osteoarthritis
東京大学大学院医学系研究外科学専攻 感覚運動機能医学講座
整形外科 University of Tokyo

演題カテゴリー

1. RAの臨床
2. RAの治療
3. 膠原病の病態と治療
4. 自己免疫と疾患
5. 小児のリウマチ性疾患
6. 関節外科(膝関節・股関節・手関節・その他の関節)
7. 脊椎外科
8. 骨粗鬆症
9. 変形性関節症
10. リウマチ性疾患の基礎:分子とシグナル
11. リウマチ性疾患の基礎:動物モデル
12. その他(できるだけ1~11のカテゴリーからお選び下さい)

Categories

1. RA- Clinical aspects
2. RA- Treatment
3. Collagen diseases
4. Autoimmunity and diseases
5. Pediatric rheumatology
6. Joint surgery
7. Spinal surgery
8. Osteoporosis
9. Osteoarthritis
10. Basic science of rheumatic diseases-Molecular mechanism and signaling
11. Basic science of rheumatic diseases-Animal models
12. Other (Please only use this option if the above 1 to 11 options are all completely unrelated)

参加登録

事前登録の締切：2005年2月28日（月）
 この日以降、事前登録は受け付けられません。当日会場にて受け付けます。
 登録の申し込みをファクシミリでご希望の方は、送り先を事務局（Fax: 03-3546-1165）までお知らせください。
 登録用紙をお送りします。

区 分	事前登録 2005年2月28日(月)まで	当日登録
学術集会 (4/17~20)	¥15,000	¥17,000
アニュアルコース レクチャー (4/17)	¥4,000	¥5,000
レセプション (4/17)	¥3,000	¥3,000

演題発表をされる方は2005年1月31日(月)までに事前登録をお済ませください。

お支払方法

- 銀行振込
 銀行口座等の詳細は、登録申し込みをいただいた方に折り返し確認のE-mailまたはFaxにてお知らせいたします。
- クレジットカード (VISA, AMEX, Master Card)
 登録の際に、カード番号、有効期限、カード保持者名の氏名が必要となります。

事前登録の確認書

事前登録を受け付けた方へは、E-mailまたはFaxにて登録内容を示す確認書兼領収書をお送りします。確認書の送付は3月中旬以降となります。当日、受付にてこのFaxまたは確認書のプリントアウトをご提示ください。

当日登録

当日登録は学会会場（パシフィコ横浜）で受け付けますが、なるべく事前登録をお願いいたします。

取消し手数料

登録を取り消す場合は書面またはE-mailにて事務局までお知らせください。2005年2月28日（月）までにお知らせいただいた場合は、手数料として¥5,000を差し引いた金額を返金いたします。2月28日（月）以降の取り消しの場合にご入金いただいた登録料をお返しできませんのでご了承ください。

学術集会事務局からのお知らせ

トピックス

1 演題応募終了のご報告

- ・今年度の演題申し込みは、従来と異なる複雑な登録形式にもかかわらず、会員各位の多大なるご協力を得まして、昨年を上回る1000題をこえる演題が集まりました。事務局一同、厚く御礼申し上げます。年末年始にかけて、抄録の査読、プログラムの編集作業へと入ってまいります。

2 学会形式をより、国際的に、教育的に刷新します

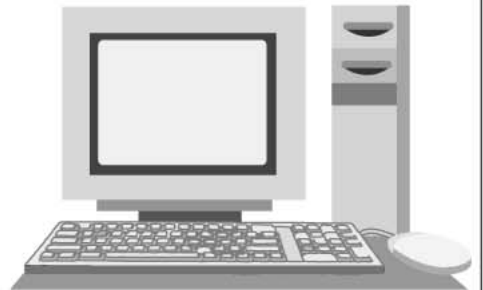
- ・学会の公式抄録集は、リウマチ学会の学会誌であります“Modern Rheumatology”の別冊とし、内容も英文として国際化をはかります。
- ・従来のポスターセッションの代りに、ポスターディスカッションセッションを設けます。当セッションでは、一人あたり10分から15分の十分な発表時間と、討論時間を予定し、単なる発表の場から、リウマチ学知識の情報交換、教育の場にしたいと考えております。なるべく多くの先生方のご参加をお待ちしております。
- ・日本リウマチ学会国際委員会のご協力により、海外、とくにAPLAR圏、EULAR圏、ACRのリウマチ医を対象に奨学金制度を設け、若手医師を中心に約20名招待します。

3 学会賞が変わります。

- ・日本リウマチ学会は学術賞1題（副賞100万円）、奨励賞3題（副賞10万円）とし、従来、学術集会・総会で受賞報告のみ行っていたものを、日本リウマチ財団関連3賞とともに講演をいたします。

4 器機展示場を充実いたします。

- ・従来、日本リウマチ学会学術集会の器機展示は、小規模なものでしたが、本学会ではACRのように、展示場を用いて大規模に機器展示（製薬企業および関連会社のプロモーションおよび教育的展示）を行うとともに、ポスターディスカッション会場も設置しております。多くの会員が集う場として活用していただきたいと考えております。



第49回日本リウマチ学会総会・学術集会事務局長
 中村 洋（聖マリアンナ医科大学 難病治療研究センター）
 〒216-8512 神奈川県川崎市宮前区菅生2-16-1
 Tel 044-977-8111・044-979-5129 Fax 044-977-9165
 E-mail: nakamura@marianna-u.ac.jp http://www.jcr2005.com/

JCR2005 運営事務局
 104-0061 東京都中央区銀座3丁目10-9共同ビル(銀座3丁目)2階
 (株)ジェイコム内
 TEL: 03-3546-1175 FAX: 03-3546-1165
 E-mail: jcr2005@jtbcom.co.jp

第68回 アメリカリウマチ学会レポート



住田 孝之 教授

友尾 孝、若松 英
後藤大輔、松本 功
伊藤 聡、堤 明人

筑波大学大学院
人間総合科学研究科
先端応用医学専攻臨床免疫学



第68回アメリカリウマチ学会（ACR）がテキサス州サン・アントニオにて2004.10.16～21に開催された。採用抄録数は1890題であり、採用率は68%であった。スペインやメキシコの統治下にあった歴史からも、30℃の蒸し暑い気候からも、アメリカというよりメキシコという印象の街であり、サンアントニオ川を囲むRiver walkの散策は涼をとるには最適であった。

さて、本学会の全体の印象として、関節リウマチに対する生物学的製剤の効果が華々しくデビューした2～3年前の活気とくらべ、それらの治療戦略がすでに定着して落ち着いた感じを受けた。対象疾患が早期RAに移り、さらに、すでに適応が認められた強直性脊椎性、乾癬性関節炎、乾癬ばかりでなく、若年性関節炎、ブドウ膜炎、サルコイドーシス、全身性エリテマトーデス（SLE）、シェーグレン症候群（SS）など免疫機序が病因として考えられる疾患に対して積極的にトライアルが行われていた。

新しい生物学的製剤としては、T細胞のco-stimulator signalをターゲットとしたCTLA-4 Ig(Abatacept) は来年認可されると思われる。ヒトモノクローナル抗IL-15抗体、IL-1 Trap、抗ケモカイン抗体、p38 kinaseプロロッカーなどが紹介され今後の成果が期待された。

「Rofecoxib (VIOXX) の撤退」については、10月18日に製薬会社、FDAからの説明があり会場は超満員で関心の高さを物語っていた。

以下に本学会のトピックスを簡単に記述する。

1. RAに対する生物学的製剤治療の進歩：

1) Infliximab：Smolenらにより、早期関節リウマチに対するinfliximabの治療効果が報告された(353)。発症3年以内の早期関節リウマチ患者を対象として、infliximab 3mg/kgと6mg/kgを54週間投与して、骨破壊についてSharp scoreなどを用いて評価した。その結果、手と足の骨に関しては、新しいびらん（融解病変）は全く認められなかった。つまり、infliximabにより新しい骨破壊の予防が可能であることが判明した。

2) Etanercept：早期リウマチに対するetanercept+MTX併用療法における2年間の解析(TEMPO)では、ACR20が85.7%と良好であった(521)。また、ボストンのWeinblattらにより、早期および進行した関節リウマチに対してetanerceptを7年以上使用した患者に関する効果と安全性について報告があった(356)。7年間の長期にわたっても、効果は持続し安全性に問題はないという内容であった。また、スペインのグループから、infliximabが無効の症例においてetanerceptが有効であったという報告も見られた(373)。

3) Adalimumab：英国とアメリカのグループから、adalimumabとMTXとの併用療法が進行したリウマチに4年間有効であることが報告された(353)。また、adalimumabとMTXとの併用療法に

より、早期関節リウマチの30%が2年間におよび進行が認められなかった(355)。MTXとadalimumabのコンビネーション治療により早期リウマチの進行を抑え、進行したリウマチも4年間に渡り寛解に誘導できることが明らかにされた。

4) IL-6R Ab: 横浜市立大学の横田先生と大阪大学の西本先生のグループから、重篤な全身型の若年性リウマチの小児を対象としたIL-6R Ab(atlizumab)の長期間(2~3.5年)使用効果について報告があった(76,77,1100)。長期投与により、身長増加(z-scoreの増加:0.2~1.6)、Kaupインデックスの改善(4.2~11.6)がみられ、骨密度もz-scoreで0.32~9.78に増加した。これらは、IL-6R Abによる慢性炎症に対する治療効果と副腎皮質ステロイドが減量可能になった効果とが考えられた。小児の炎症性疾患に対して、成長曲線をも改善する魅力ある薬の登場である。さらに、若年発症関節炎に対して、etanercept, adalimumab, anakinraなども有効であるという報告があった(1095,1096,1098)。

5) Abatacept(CTLA-4-Ig): AbataceptはCTLA-4とimmunoglobulinとの融合蛋白である。フランスとアメリカのグループからabatacept 10mg/kg IV/月とMTXの併用による2年間のphase IIの効果が報告された(351,359)。ACR20は77%であり、ACR50とACR70はそれぞれ55%、29%であった。Phase IIIについては、12ヶ月でACR73%であり、TNFブロッカー抵抗症例においてもACR20は50%(24週)と有効であった(Industry Roundtable-supported symposium, J.Kremer)。AbataceptはT細胞とB細胞との相互作用を特異的に抑制する機序であることから、T細胞が病因として重要な病態では、多いに期待される治療薬となろう。

6) その他の生物学的製剤: ヒト抗IL-15抗体(AMG714)がRAに対して有効であることが報告された(527)。IL-15はTNF- α , IL-1, IL-6などのサイトカインの上位に位置するため、効果が多いに期待されている。実際のACR20は約60%であった。また、IL-1 Trap(IL-1受容体+受容体アクセソリー蛋白+IgG1)のphase IIの結果、ACR20が46%であり、IL-1受容体アンタゴニストと同様に効果があり強くない印象をうけた(517)。ケモカイン(MCP-1/CCL2)に対するヒトモノクローナル抗体(ABN912)のphase IIの結果から、抗ケモカイン抗体はRAに対してあまり有効でないことが報告された(519)。

2. Etanerceptの感受性関連遺伝子解析:

ドイツのJ. Kekowらのグループは、etanerceptに対して感受性のある患者と抵抗性の患者の末梢血をDNA arrayで解析し、etanercept感受性遺伝子候補を明らかにした。それらは、IL-1b, ICAM1, PPBEF, SCYA3, NFKB1A, SCYA4, H3FK, CD69, NF-IL3,

CXCR4, HBB, MNSOD, BCL2A1, VPARであった。今後の詳細な解析が待たれる。

3. SLE、SSにおける生物学的製剤の使用報告:

産業医大の田中先生および、スウェーデンのグループによりSLEに抗CD20抗体が有効であることが報告された(1027,1028)。抗CD20抗体に関しては、アメリカではすでに治験(phase III)に入っているようである。また、infliximabやetanerceptなどのTNFブロッカーもSLEやsubacute cutaneous lupusに有効であることが報告された(1022-1024)。

SSにおいては、抗CD20抗体の有効性が報告されたが(1510)、infliximabはオープン長期トライアル(TRIPSS)でも有効性が認められなかったという報告があった(1508)。

4. VIOXXの撤退:

cox-2インヒビターの一つであるrofecoxib(VIOXX)について、発売元であるメルクが長期投与試験(APPROVe study)をおこないcardiovascular event(心臓発作、心筋梗塞など)について検討した。その結果、VIOXX 25mg/日を10ヶ月以上使用した群において、コントロールに比べてcardiovascular eventの相対危険度が1.96倍であることが判明したため、自主的に販売を撤退することに至った。続けてFDAから、celecoxibを含めた他のcox-2 inhibitorの安全性について過去のデータによる説明があったが、今後も進行中の治験(大腸ポリープ、アルツハイマー病など)でcardiovascular eventについてコントロールと比較検討していくことが必要であるという発言があった。

5. 日本におけるleflumomide(アラバ)使用患者にみられた間質性肺炎に関する他国による解析:

Cannonらにより日本におけるアラバ使用者の間質性肺炎の因果関係について報告があった(1470)。29名の間質性肺炎患者(18例死亡)のうち3名のみがアラバと因果関係が強くあり、11名が可能性があるとされている。しかしながら、死亡例全員に関する日本での臨床、病理学的な解析が行われていない現状では、因果関係については企業寄りの報告と認識された。今後、学会と企業による詳細な検討がなされ、アラバによる日本人特有の間質性肺炎の原因、および安全性の早期の確立が望まれる。

RA治療薬のレパトアが著しく拡大してきた。今後、日本で他国に遅れず、安全に、安く使用することができるよう願うばかりである。



稲田 進一
都立大塚病院 副院長

東京都のリウマチ性疾患に対する取り組み

1. 都立病院の今後

東京都は石原都知事の提唱のもと、「365日24時間の安全・安心」と「患者中心の医療」を目指す「東京発医療改革」を推進するために「都立病院改革」に取り組んでいます。患者にも医師にも厳しくなる医療環境のなかで、都は独自に医療の質を確保しながらかつ都民のニーズにこたえるべく努力をしようという意気込みであります。すでに都立病院の患者権利章典を作成し、一部病院においてはテレビでも有名になったERを開設し救急医療への対応をしています。今後さらに専門性を勘案した都立病院の機能分担をすすめ、小児医療、精神医療など重要課題に対応した病院再編整備を平成20年台前半までに行う予定です。都立の総合病院としては広尾、大塚、駒込、墨東、府中の5病院が中心となります。

2. 東京都のリウマチ・膠原病系難病医療への取り組み

すでに諸種のメディアを通じてご案内のように、府中に多摩メディカルキャンパスの一部として小児総合医療センター、駒込病院にはがんと感染症医療センター、広尾病院には救急・災害医療センター機能などが加わることとなります。そしてリウマチ・膠原病医療センター機能は都立大塚病院が担うことになっております。都のリウマチ関連の診療、研究、情報の中心となることが目標であり、現在整備計画の検討中です。もちろん都立各病院は地域との連携機能を継続していくために、総合診療基盤（救急を含めた総合病院としての機能）を維持することはもちろん、さらに区部広域基幹病院としての機能を持つ墨東病院や多摩広域基幹病院となる府中病院におけるリウマチ科診療も地域性を鑑み維持していくことは言うまでもありません。都全体としてより総合的かつ機能的にリウマチ・膠原病医療に対応していく予定です。

3. 人事育成—新研修制度

平成16年度に始まった新臨床研修制度にも積極的に取り組むべく、独自の新カリキュラムを作成し、都立病院全体で採用研修医は従前より倍の一学年60名といたしました。今後も教育環境の整備をはかるとともに漸増させていく予定です。新たな都立病院のスタッフを自前で育てるという人事育成の観点からも、さらに充実させていく必要があると考えており、かつまたジュニア教育後のシニア教育制度の拡充も必須と考えております。現在でも駒込、府中、墨東、広尾病院などでシニア研修医（3年制）を採用

しておりますが、今後は小児、精神、産婦人科などのスペシャリティーを重視したシニアの採用も積極的に推し進める予定です。いずれはリウマチシニアなどの採用も考える時期が来ると考えておりますが、その人材育成にはリウマチ学会会員の先生がたのご指導が不可欠であり、ご協力を仰ぐことになると思いますのでよろしくごお願い申し上げます。



各地域で活躍中の 若手医師の声



中国四国地区

西田 圭一郎

岡山大学大学院医歯学総合研究科機能再生・再建科学

この度は若手医師の声を寄稿する機会をいただき、大変光栄に存じます。この場をお借りして、今回第48回日本リウマチ学会総会・学術集会事務局として運営に携わることのできた一会員として今回気になった点を2つ挙げさせていただきます。

採択率について.....

近年はリウマチ学に関連する学会、研究会も非常に多くなってきた。やっと一つ終わった、と思っていると、すぐ半年後の学会の抄録締めきりが近付いている。施設によって、グループによって1年間で最も力を入れる学会をいくつか決めているであろうが、研究テーマはそうそう多くないし、最新のデータを出そうとするので、同じ時期に複数の抄録の締めきりがあるとつい同じ内容の演題を提出してしまう。第48回日本リウマチ学会総会・学術集会では演題募集に対して985題が集まり、年に一度の全国大会らしい優れた演題がめじろ押しであったが、基本的には前年度からの慣習を踏襲して全演題採用であった。今回は当初からなるべく多くの演題をポスター発表で採用する、という方針を掲げていたため、優秀な演題でもグループ分けの関係上ポスター発表にまわっていただいて、ポスター発表自体のレベルアップも図った。しかし、一方で、忙しいプログラム委員の先生方に、期限を限ってわざわざ点数付けまでしていただいて、複数の委員がそろって低い評価を下した演題を無理して採用する必要はなかったのではないかと考える。むしろ、学会のレベルアップのためには思いきってACRなみに採択率を下げてシンポジウムや教育研修講演に時間がさけるようにするべきではないだろう

か。もちろん、学会自体への参加者の減少は免れないかも知れないが、あまりお祭り状態になるのも考えものだし、学会を極めて学術的な交流の場とすることを目的とすればやむを得ないのではないだろうか。

症例報告について.....

第48回日本リウマチ学会総会・学術集会に応募された演題のうち、実に192題が症例報告であったが、より多くの専門家の意見を聞いたり、経験のある他施設の医師に治療法についての評価を受ける、という本来の目的が、過密なスケジュールに追われる参加者達の中で果たして達成されたかどうか疑問である。今回取り入れたケースチャレンジは概ね好評であったが、こういった試みも含めて症例報告はむしろ地方会にまかせた方がよいと思う。あるいは全国大会とは別に「全国症例検討会」のような会議を企画して、真に全国レベルで多くの経験豊かな会員と共に症例の検討をじっくり行った方が勉強になるのかもしれない。いずれにしても、自分が経験できない貴重な症例の治療経過を詳細に聞ける意味でも、あるいはかつて治療に難渋した同様の症例が鮮やかに解決される手段を学ぶ上でも症例報告を聞くことは大切である。また、全国大会に発表される報告には貴重なものも多く、これらの蓄積も重要である。地方会の症例報告を(中)日本リウマチ学会がまとめたもの、あるいは「全国症例検討会」の詳細な抄録集または機関誌が意義ある症例報告の投稿先となれば素晴らしいし、将来的には、症例検討そのものもネット上で行われる日が来るかもしれない。

各支部だより

第16回 日本リウマチ学会 中部支部学術集会

会 期：2004年9月4日（土）
会 場：名古屋銀行協会

会長：藤田保健衛生大学医学部 リウマチ・感染症内科 吉田 俊治（執筆：藤田保健衛生大学医学部 リウマチ・感染症内科 吉田 秀雄）

第16回日本リウマチ学会中部支部学術集会が2004年9月4日（土）、名古屋銀行協会において、藤田保健衛生大学 リウマチ・感染症内科 教授 吉田俊治を学会長として開催された。一般演題90題、特別講演2題そしてシンポジウムがプログラムされ、学会参加者は300名以上におよび盛況の裡に無事終了することができた。

一般演題は、整形外科、内科、検査技術科より多岐におよびタイムリーな演題が多く、時間を延長した活発な質疑応答がみられた。

特別講演では、「膠原病診療における自己抗体の意義～早期診断・予後予測～」と題して京都大学の三森経世先生が、自己抗体と対応抗原の解析のup to dateな話題、近年注目される自己抗体、臨床的な意義のみならず自己抗体検査の進め方について詳しく解説された。また「造血幹細胞移植の現状と将来—特に対象疾患拡張のモデルとしての膠原病に対する移植を展望して—」と題して名古屋第一赤十字病院の小寺良尚先生に、造血幹細胞移植の現状と厚生労働省研究班での造血幹細胞移植対象疾患拡張のモデルと

してとりあげられている膠原病患者での有用性、安全性を具体的な最新のデータの提示など詳しく解説をしていただいた。その中で、難病である膠原病に対しQOLの向上を指標とした各種造血幹細胞移植の可能性を強調された。

シンポジウムとして「関節リウマチの新薬2004—現状と今後の展望及び具体的な使い方—」が開催され、松本美富士先生（山梨県立看護大学）、岩堀裕介先生（愛知医科大学）を座長として金物壽介先生（長野赤十字病院）、天野宏一先生（埼玉医科大学総合医療センター）、杉山英二先生（富山医科薬科大学）にMTX、インフリキシマブ、レフルノミド、今後登場する抗リウマチ薬（エタナセプト、イグラチモド、タクロリムスなど）の現在の位置付け、具体的な使い方、注意事項が実践的に解説され活発な討論、質疑応答が行われた。またシンポジウムの内容をまとめた小冊子も配付され参加者に好評であった。

膠原病等合併症例における造血幹細胞移植の全国調査 (深谷、江崎、鳥飼、吉田ら)

対象：338施設（日本造血幹細胞移植学会データ登録全施設）
回答：164施設（48.5%）
結果：

- 1) 164施設において行われた8,667例の造血幹細胞移植例の内、67例に免疫、アレルギー疾患（膠原病：18例、アレルギー疾患：23例、その他の自己免疫疾患：26例）の合併が見られた。
- 2) 造血幹細胞移植後の転帰は
膠原病：軽快7例（39%）、不変8例、悪化1例、不明2例
アレルギー疾患：軽快10例（43%）、不変11例、悪化1例、不明1例その他の自己免疫疾患：軽快7例（27%）、不変11例、悪化3例、不明5例

自己抗体測定の意味

- | | |
|--------------|--|
| 1. 膠原病の補助診断 | 抗Sm抗体→ SLE
抗Scl-70抗体→ 強皮症
抗Jo-1抗体→ 多発性筋炎
ANCA→ 血管炎症候群
抗CCP抗体→ RA |
| 2. 病型分類 | 抗dsDNA抗体→ ループス腎炎
抗Scl-70抗体→ びまん型強皮症
抗Jo-1抗体→ 間質性肺炎合併筋炎 |
| 3. 疾患活動性の指標 | 抗dsDNA抗体→ SLE
C-ANCA→ ウェジナー肉芽腫症 |
| 4. 予後・重症度の推定 | 抗Scl-70抗体→ 重症肺線維症
抗SRP抗体→ 難治性筋炎 |

第14回近畿支部学術集会

会 期：2004年9月4日（土）
会 場：毎日新聞社オーバルホール

会長：近畿大学医学部奈良病院 整形外科・リウマチ科 宗園 聡

第14回日本リウマチ学会近畿支部学術集会（宗園聡会長、中村孝志支部長）が2004年9月4日、大阪市北区の毎日新聞社オーバルホールにおいて開催された。学会参加者は、200名を超え盛況裡に無事終了した。

近畿支部学術集会は、従来から9月の第一土曜日に同じ会場で開催されており、一般演題は募集せず特別講演とシンポジウムのみという形態で行われてきた。今回も同じ形態をとらせて頂いた。なお、現在薬物療法のトピックスである抗TNF α モノクローナル抗体やレフルノミドといった薬剤については、話を聞く機会が多いことからあえて今回は取り上げなかった。

特別講演は松山赤十字病院リウマチセンターの山本純己先生にお願いし、「RAのトータルマネジメント—チーム医療と薬物療法、手術療法の現況—」と題してお話し頂いた。RAに対しては単なる治療というよりは、マネジメントという考え方が重要であることや、理想的なRAのマネジメントの基本について述べて頂いた。

さらに、現在我々が自由に行える治療として薬物療法と手術療法（主に人工関節形成術）について、その基本と実際についてお話し頂いた。その内容をまとめたものを表に示す。

午前中にシンポジウムを二つ行い、1は「RAの病因および病態」と題し、RAの疾患関連遺伝子としてアンジオポエチン-1やDeath Receptor 3などの遺伝子の話題、骨、関節破壊と滑膜線維芽細胞やオステオポンチンとの関連の話題、カルパイン阻害による関節炎治療の試みの話題、などを提供して頂いた。2は「ストレスとRA」と題し、RA患者のうつ傾向や心理状態、RA患者におけるストレスホルモンの変動などについて討議して頂いた。

特別講演とお昼をはさんで、午後にもシンポジウムを二つ行った。3は「リウマチ性疾患と骨粗鬆症」と題し、RAにおける骨折、傍関節性および全身性骨粗鬆症、ステロイド性骨粗鬆症における骨の脆弱性や大量投与時の骨折閾値などの話題を提供して頂いた。最後の4は「RA治療の今後」と題し、COX-2阻害剤の利点と問

題点、IL-6レセプター抗体、ヒト化アポトーシス誘導抗体、軟骨再生技術を取り入れた関節再生術の試み、などについて発表して頂いた。

この1日でRAをめぐる基礎から臨床にわたるアップデートな話題を聞くことができ、参加された先生方のお役に立てたものと考えます。

関節性および全身性骨粗鬆症、ステロイド性骨粗鬆症における骨の脆弱性や大量投与時の骨折閾値などの話題を提供して頂いた。

最後の4は「RA治療の今後」と題し、COX-2阻害剤の利点と問題点、IL-6レセプター抗体、ヒト化アポトーシス誘導抗体、軟骨再生技術を取り入れた関節再生術の試み、などについて発表して頂いた。

この1日でRAをめぐる基礎から臨床にわたるアップデートな話題を聞くことができ、参加された先生方のお役に立てたものと考えます。

RAのマネジメント

- 基礎療法の上に薬物療法、リハビリテーション、手術療法、ケアの4本柱の支持のもとに成り立つ
- 治療手段の内容のみでなく、柱を支える医師やコメディカルスタッフの協力によるチーム医療が必要
- 治療のレベルの高さと同時に、チーム構成員間の情報の交換や再評価などのシステムが重要

RA治療

- 薬物療法
 - 早期から効果の強いDMARDsを使用する
 - 現時点ではMTXが第一選択薬
 - 重要なことは、目先の疼痛や炎症の指標に気をとられず、長い経過の先の予後を考えて治療法を選択すること
- 手術療法
 - RA治療の進歩は人工関節形成術が導入されたことに負うところが大きい
 - 患者のADL、QOLの評価を行い、その観点から手術のタイミングをはかることが大切

第15回 中国・四国支部学術集会

会 期：2004年11月13日(土)
会 場：おかも三光荘

会長：岡山大学大学院腎・免疫・内分泌代謝内科学教授 榎野博史 (執筆：岡山大学大学院腎・免疫・内分泌代謝内科学 山村 昌弘)

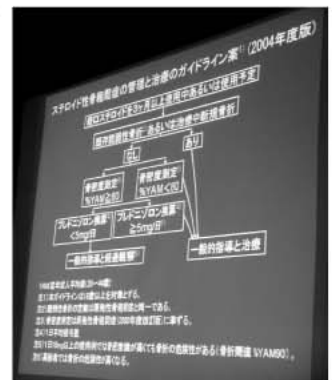
第15回日本リウマチ学会中国・四国支部学術集会は、2004年11月13日(土)に岡山大学大学院医歯学総合研究科腎・免疫・内分泌代謝内科学榎野博史教授を会長として、おかも三光荘において開催された。教室員の献身的な努力と共催あるいは協賛いただいた製薬会社のご協力により、盛会のうちに無事終了することができた。

抗サイトカイン療法の導入が始まり、本邦でも関節リウマチの治療体系の変革期に突入した時期でもあることから、今回の支部集会では講演やシンポジウムを通してリウマチ治療に関する最新の情報を提供できるように企画した。岡山は中国・四国地区の中では交通のアクセスの良いこともあり、多くの支部学会員に参加していただき、参加者は200人を越えた。

特別講演では、本年4月に発刊された「関節リウマチ診療ガイドライン」改定版の薬物療法総論を担当された東京大学医学部アレルギーリウマチ科の山本一彦教授が「関節リウマチのガイドライン」、また厚生労働省研究班で関節リウマチの早期診断と予後の予測に関する研究を推進されている長崎大学大学院医歯薬学総合研究科病態解析・制御学講座江口勝美教授が「関節リウマチの早期診断と臨床経過の予知」と題して講演された。ランチョンセミナーでは、最近発表されたステロイド性骨粗鬆症の管理治療ガイドライン作成で中心的な仕事をされた近畿大学医学部奈良病院教授の宗圓聡先生が「関節リウマチにおける骨粗鬆症の病態、診断、治療」と題して講演された。いずれも学会員には関心の高いテーマで、講師の先生方には最近の知見を織り交ぜて詳細にわかり解説していただき、大変好評であった。

また、シンポジウム「リウマチが重症化しないために—EBMによる治療を目指して—」では、中国・四国地区で活躍している若手リウマチ医に薬物療法、外科治療、難治性病態に関する8つの

テーマについて概説してもらった。シンポジストの先生方は膨大なエビデンスを調査した結果を、少ない発表時間の中でエッセンスを要領よく発表された。一般演題の各セッションでは、症例検討を中心に活発な質疑応答が行われ、盛況であった。一般演題の発表は40演題にも及び、また多くの運営委員および評議員の方々にご協力いただいた。この場をお借りして感謝申し上げます。



専門医、指導医資格更新のお知らせ

(中) 日本リウマチ学会の指導医および専門医の認定有効期間は、それぞれ5年と定められており、今年度に資格更新対象となる指導医・専門医には各人に宛て「資格維持申請書」が10月に送付されている。

今回の資格更新対象者

- (1) 指導医：1999年度（2000年3月1日認定者および更新者）
専門医：1999年度（ 同上 ）
- (2) 専門医：1998年度（1999年3月1日認定）以前の認定を受けた2004年3月1日更新の申請時での保有者

なお、更新時65歳以上の指導医および専門医は、申請書の提出と更新料の納付のみで資格更新が可能となる。

更新申込：申請書に必要事項を記入の上、更新費（指導医10,000円、専門医10,000円、指導医・専門医20,000円）を納入し12月末（必着）までに提出。

認定日：2005年3月1日

専門医資格認定委員会、専門医制度委員会で審査され、更新認定者には理事会の承認を得て、認定証・専門医手帳が3月中に送付される。

将来構想委員会の報告



副理事長
将来構想委員会委員長
西岡 久寿樹

将来構想委員会（2004年9月7日開催）報告 <理事会議事録から>

学術集会のあり方について2005年の横浜での新たな挑戦と改革に取り組み、その結果を各観点から検討し将来につなげる。

具体的には

1. 英文抄録を学会誌Modern Rheumatology (MR)のSupplementとして編纂発行する。
2. 独自の専門医研修を確立する一つとしてコースレクチャーを取り入れる。
3. 学会賞の改革を行い、学術賞1つ（副賞100万円）、奨励賞3つ（副賞10万円）に分けて授与する。学術賞の受賞者については、日本リウマチ財団のリウマチ関連三賞の受賞者と一緒に学術集会期間中に記念講演を行っていただく。との報告がされた。

これに対し、理事会では

- 1) 重要な示唆に富んだ計画だと思う。
- 2) 研修も専門医と登録医が同一でいいのか。
- 3) 専門医として少なくとも5年の更新期間中に1度はコースレクチャーを受講する等の条件があってもいいのではないかなどの意見が出され、将来構想委員会報告が了承された。

編集委員会の報告



編集委員会委員長
宮坂 信之

編集委員会報告 第138回編集委員会（2004年10月26日開催）報告

1. アメリカリウマチ学会の際に開催された国際リウマチ編集長会議にて、当会議に参加するすべてのリウマチ関係誌は統一した英文略語を用いることが承認され、これに基づいてModern Rheumatologyでは国際統一用語リストにあるものは、リストを参照するが、他はリウマチ学用語集に基づいて投稿とする。
2. 2004年までの査読者一覧を来年度15-1号に感謝文付で掲載する。
3. Index Medicus(IM) 掲載再申請への準備として、今後の掲載論文では学会賞受賞者の論文、我が国の診療ガイドライン、海外からの依頼原稿などで評価重点項目に対応した編集対応を15-2、15-3、15-4各号に反映させる。
4. 新表紙：ブラック基調のノートブック型デザインを2005年15-1号から採用する。
5. 学位論文の投稿が可能となるよう、査読に関する一連のプロセスをさらに早める。
6. 迅速な査読と事務効率化のためオンライン査読ソフトを早期に導入する。
尚、パス論文受領後、約4ヶ月かけている期間の短縮を交渉する。
7. 平成17年度の科研費再申請に当たり、定期刊行物として発行日遵守が最重要と再確認した。発行頁数は実数平均100頁で申請。広告収入は、2005年も今年度並みの実績を期待している。

選挙管理委員会からのお知らせ

役員（理事・監事）の改選



選挙管理委員長
越智 隆弘

2003年度総会において、『役員選任内規』の改正が行われ、2005年度定時社員総会に於いて、役員（理事・監事）の改選が行われる。今回から理事候補者選出選挙にあたり立候補制度を取り入れた最初の選挙となる。

役員の数：理事16名

【全国選出理事10名、支部選出理事6名（各支部1名）】

監事2名

【理事会で候補者を推薦し、評議員会に諮り社員総会において選任する。】

理事選任日程：選挙管理委員会の発足：2004年7月6日（火）
選挙人の確定：9月1日（水）在籍の評議員
立候補者の公募及び立候補締切り：10月1日（金）
から11月30日（火）

選挙公示及び投票締切り日：公示12月24日（金）
投票締切り日2月2日（水）（締切日の消印有効となっている。）
開票予定日：2005年2月10日（木）予定
役員を選任：2005年4月19日（火）第49回学会・定期社員総会（予定）

＝主な変更および留意事項＝

- (1) 今回から立候補制とし、立候補した者のみが被選挙人となる。（前回までは満66歳未満の全評議員が被選挙人となり、互選方式であった。）
- (2) 立候補は、全国選出・支部選出の双方に立候補（被選挙人）ができる。
- (3) 立候補の資格は、平成17年4月1日現在、年齢満66歳未満の評議員（昭和14年4月2日生以降の者）ただし、現役員（理事・監事）で連続して6年役員を務めた者は、立候補しない。
- (4) 投票に当たっては、特定の専門領域及び地域に偏向しないよう留意する。
- (5) 立候補者一覧表および投票用紙は、公示日に選挙人に郵送する。

国際委員会の報告



国際委員会委員長
井上 一

国際委員会報告 委員長 井上 一

第11回 APLAR総会が2004年9月11日（土）、韓国济州島（Jeju）の国際コンベンションセンターで開会され、下記の主要な決定がなされた。

APLAR2008年大会

APLAR2008大会の主催を日本がフィリピンのいずれかに決定するにあたり投票が行われた結果、単純過半数で、日本に決定となった。

APLARの新役員

(2004-2006)

会 長：西岡久寿樹
次期会長：C.S. Lau（香港）
副 会 長：Swan Sim Yeap（マレーシア）
高柳 広（日本）
事務局長：Kevin Pile（オーストラリア）
局 次 長：Rohini Handa（インド）
会 計：Ho-Youn Kim（韓国）

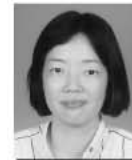
前 会 長：Prakash Pispati（インド）
編 集 長：C.S. Lau（香港）次期会長兼任



会長：西岡久寿樹
（日本）



次期会長：C.S. Lau
（香港）



副会長：Swan Sim Yeap
（マレーシア）



副会長：高柳 広
（日本）



事務局長：Kevin Pile
（オーストラリア）

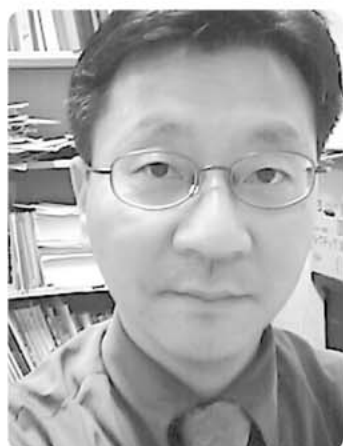


局次長：Rohini Handa
（インド）



前会長：Prakash Pispati
（インド）

尚、西岡会長は、APLARの開会式で、「地域、学問領域など含めて、強力な理事会メンバーが構成されました。特に、平均年齢が50歳未満というAPLARでは初めて若手の理事会メンバーとなり、今後の改革を進めていく上で、強力な布陣が出来たと考えています。今後、EULARとの強力な連携の下に、APLARの健全な発展を推進したい」と挨拶した。



天野 宏一 ● 埼玉医科大学総合医療センター第2内科

APLAR印象記

2004年9月11日から15日まで韓国の済州島において、第11回APLAR（アジア太平洋リウマチ学会連盟）大会が開催され参加する機会を得た。以前SEAPAL（東南アジア太平洋リウマチ会議）と呼ばれていたころに東京で開催されたのを記憶しているが、その時は参加しなかったため、私にとって今回は初めてのアジアを中心とした国際学会であった。

私は内科なので特に最近の流行である抗サイトカイン療法のセッションを中心に拝聴したが、主要な発表者の多くは欧米人の大御所で、どれも同じような大規模試験の成績を中心とした内容で、私は日本でもすでに聞いたことがあるものが多く新鮮味は少なかった。しかし、フロアからはインドやホンコンなどアジア各国からの出席者から活発な討議があり、結核が多いことや、経済的な問題などにより、生物学的製剤はほとんど患者にとって非現実的な治療であることが指摘され、興味深かった。欧米諸国では、生物学的製剤を早期から使用する方向に進んでおり、医学的にそれは正しい方向であると思われるが、現実にはそれができない国があることにも目を向けなければならない（しかも、それらの国々の人口は欧米よりはるかに多く、当然RA患者数も圧倒的に欧米より多いはずである）。そういった国々においては、単に「効果がある」というだけではなく、薬品の価格、投与方法なども考慮した、現実使用しやすい薬剤による治療ガイドラインが必要なはずである。

APLARは、欧米の最先端の情報をアジア太平洋地域各国に提供する場であるとともに、アジア太平洋諸国（特に発展途上国）においてより現実的なRA治療体系を作る使命もあると思う。たとえば、生物学的製剤の使用ガイドラインにしても、結核の罹患率の高い国々ではINHの予防投与を原則必須にするなど、欧米や日本とは異なったものにするべきであろう。ちなみにオーストラリアからの発表者は自国の一般人口における結核の罹患率を知らなかった。同じAPLAR諸国といってもまったく認識が違うことを如実に示している。

今後APLARは、欧米人ばかり呼んできて「ミニACR (or EULAR)」のようにするのはではなく、もっとAPLARらしさを出すべきである、と感じた。それも日本や韓国といった先進国ばかりでなく、特にアジア太平洋地域の途上国におけるRA治療の現状や将来を考えるような企画を提供してみてもどうか？「scienceとしてのlevelが低下する」という批判もあるかもしれないが、臨床医学には「science」以外に「socioeconomical」な要素もあるはずで、それらの側面について議論する場があってもよいだろう。さらにアジアのこれからを担う若手の研究者にもっと参加の機会をあたえるべく、参加費を安くするなど、検討してほしい。APLARは、アジア太平洋地域のリウマトロジストとリウマチ性疾患に苦しむ患者に役立つ学会でなくてはならない、と思う。

APLAR に参加して

(中) 日本リウマチ学会からの呼びかけ、そして行った事のない国、という理由で韓国開催のAPLARに参加を決めました。抄録を送ったまでは簡単(全てe-mail) だったので、それからが大変。9月初めの夏休み期間、そしてかつてない韓国ドラマブーム(実は会場の済州島は数々のロケ地として有名だった)の中で、フライトが予約一杯なのです。さらに、ポスター作成も一枚刷りだとレイアウトなどに一苦労。コンピュータで直接スライドが映写できるのに比べて、ポスターの方が手間ひまが掛かることをすっかり失念しておりました。

四苦八苦しながら何とか準備が整い、9月11日という日付にドキドキしつつ成田から飛び立つと、あっけないほど簡単に3時間足らずで到着。そして、淡路島によく似たのどかな風景の中をドライブして学会場へ。そこは、海を臨む、大き目の東京国際フォーラムといった雰囲気ガラス張りの建物で、アジアのみならず、欧州からの参加者も多く見受けられました。

学会のトピックスとしては、まずは生物学的製剤、遺伝子治療でしょうか。整形外科関連の骨・軟骨の免疫や代謝、画像診断の演題も多く、加えてアジアならではの、中国・シンガポールを中心とした疫学の話題でした。合衆国など多民族国家では成し得ない研究でしょう。さらに、bee venom therapy、Tai-Chi exerciseといった、韓国独自の治療に関する演題もありました。日本では、大陸由来の医術は漢方、すなわち中国と捉えがちですが、東洋医学(oriental medicine)はもっと奥が深く、まだまだ知らない世界があることを感じました。

また、リウマチ学会だけあって、製薬メーカーの展示も広く(ポスター会場より立派)確保されていました。ちなみに、この写真は某メーカーのブース脇の特設会場にて撮っていただいたものです。しかし、外見が派手なだけでなく、MRの方々は大変熱心で英語も堪能であり、薬の宣伝のみならず、“日本ではどうなのか?”と、質問せめに会いました。

日本への興味はドクターもお持ちであり、来日経験のある方々と話す機会も(ポスター会場、ならびに主としてはオプションツアーで観光しつつ)得ることができました。アジア諸国に対する、日本の学会への参加支援、病院・研究施設での研修。その実現には認可など時間を要すると思いますが、英文ホームページによる情報発信などは今すぐに出来る国際参加ではないでしょうか?

お土産を買うとヨ○さまグッズのおまけがついてきてしまうのにはちょっと閉口しましたが、医学界の国際交流も映画界に負けてはいられません。今後のリウマチ学会の活動に期待しつつ、ペンを置きたいと思います。

田中 真希 ● 谷津保健病院整形外科



海外留学中の会員だより



アメリカで大怪我をするということ

益田 郁子

ウィスコンシン医科大学リウマチ科 助教授、リサーチディレクター
Medical College of Wisconsin, Rheumatology



1990年から2年の予定で留学し、以来現在まで居座ってしまい、しかもその14年間で整形外科患者として手術4回という貴重な（不幸な？）経験をした方もめったにいないだろうと思い、体験談を書かせていただく事にしました。

御存じのように、アメリカの医療費は日本とは桁が違います。保険料（個人で加入する場合は年間200万円以上）はそれを個人または雇用者がaffordできるかどうかという問題で、結果として国民の約15%（＝約4500万人）は無保険で、ブッシュ政権になり更に500万人～1千万人が保険を失い、大きな政治問題化しています。「命の沙汰も金次第」は、ここでは現実です。

私は幸いに留学当初からポスドクとしての正式雇用でしたので、月給天引きの健康保険料が30ドルぐらいで、例えば心臓手術をしたとしても個人負担ゼロという職場の福利厚生がありましたから、ERでの治療や、手術、入院（約10年前のアキレス腱断裂、去年の交通事故による大腿骨骨折とその接合術、偽関節による再手術、先月の

ボルト除去術）など負担ゼロですが、請求明細がくる度、驚愕せざるをえませんでした。アキレス腱断裂は手術入院2泊3日で約200万円。去年の最初の手術入院（髓内釘。5泊6日）が約500万円。再手術（髓内釘入れ替えとサイドのボルト固定。4泊5日）がほぼ同額。先月分はボルト除去だけで日帰り手術（全麻ですが）でしたが、さていくらになるのか。では、こんなに高額で、患者として至れり尽せりのケアを受けたかということ、整形外科医であった私にしてみれば、今だから笑える程度の下手な治療しか受けていません（実際、事故後の最初の髓内釘は固定不十分で偽関節と新たなストレス骨折をおこしました）。医者の技術以外、つまり入院中のパラメディカルケア、居心地などはどうだったかということこれは病院により違って、事故後に入った病院はホテル並の広い個室でナースやPTの質も最高でしたが、その後再手術した大学病院では部屋も狭く2人部屋で、ナースもなかなか来ませんでした。

福利厚生なしで米国留学される先生方は日本で留学保険など充分

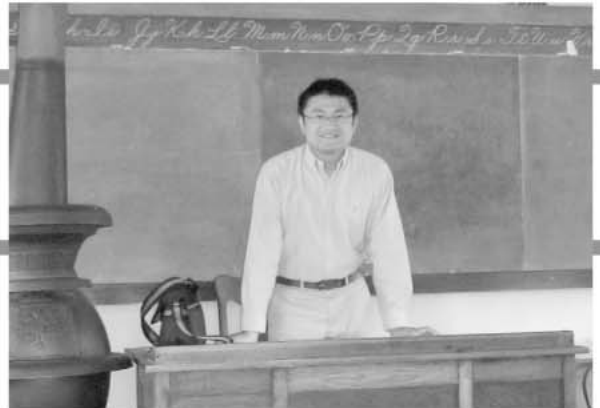
にかけてられると思いますが歯の治療などはカバーされない事も多いのでこちらで治療するより、往復飛行機代分ぐらい日本の方が安いでしょう。

何も起こらないのが一番ですが米国留学生生活を不安なく過ごすには、保険は大事と強調しておきます。

海外留学記

梶山 浩

東京女子医科大学附属膠原病リウマチ痛風センター 内科



私の専門は、リウマチ学、腎臓病学です。2003年9月から、米国 NIH/NIDDK/Kidney Disease SectionのDr. Jeffrey B. Koppラボに、お世話になっています。研究内容は、HIV腎症(HIVAN)、巣状糸球体硬化症(FSGS)の病態解析です。現在、グリコサミノグリカンsulodexideの腎保護効果、HIVANでのHIV accessory protein, vprの役割を明らかにするプロジェクトに従事しています。リウマチ学とは離れていますが、帰国後、リウマチ性疾患に伴う腎障害の研究に、この留学の経験を活かせれば、と考えています。

National Institutes of Health (NIH) はDepartment of Health and Human Servicesの生命科学研究部門で、更に20のinstitute、7のcenterからなり、私の属するNational Institute of Diabetes and Digestive and Kidney Diseases (NIDDK)もその一つです。リウマチ疾患を扱うNIAMSとは、昔はNIADDKとして一緒にinstituteでした。現在のNIAMSのラボについては、http://www.irp.niams.nih.gov/NIAMS2/LabsBranches_main.jsp を参照してください。

NIHは、postdocはもちろん、postbac (post-baccalureate)、prebac(pre-baccalureate)など様々な立場の人が、世界中から学びに来ています。prebacにはsummer studentというシステムがあり、約1ヶ月半の期間、ラボで研究をし、成果をポスター発表する機会が与えられます。Postdoctoral fellowは、例年、彼らの指導を受け持ちます。私もエール大学の学生と一緒に、rapamycinの腎毒性試験、癌治療薬の腎上皮細胞への毒性試験を行いました。仕事の一部は私が引き継ぎ、彼と実験をした経験が、英語力を高める事よりも、腎疾患関連の知識を深める事にも役立ちました。そう言う点

では、Postdoctoral fellowにとっても良いシステムだと思います。

先日、West Virginia州のHarpers Ferryに行ってきました。ここは、Shenandoah riverがPotomac riverに流れ込む昔の船舶交通の要地で、その名前の由来にもなっています。主に兵器産業が栄え、ここで、奴隷廃止論者のJohn Brownが処刑され、18ヶ月後のCivil Warの引き金となりました。現在、ここはNational Parkになっています。お店で見せてもらったNegroes \$500という、奴隷売買のポスターが印象的でした。

日米の医療の違いも経験しました。2004年1月、家内がGraves' diseaseを発症し、現地の医師には放射性ヨードが第一選択と勧められましたが、日本では妊娠可能年齢の女性には、相対禁忌となっているそうです。結局、日本に戻りMMIのみで治療し、現在はCRです。日本人が海外で病気を発症し、欧米人と同じregimenで治療され、副作用に悩む話をよく聞きます。一般的に、海外で病気を発症して、その治療法が日本と海外で大きく異なるとき、彼らの言う事に従うべきでしょうか、日本での治療方針に従うべきでしょうか。私は、人種差を考慮して、日本の治療方針に従うべきだと思います。質の良い臨床エビデンスを人種ごとに比較検討するには多大な時間と労力が必要でしょうが、世界中の医師はエビデンスの人種差をもっと意識すべきではないのか、と考えさせられました。また、良質な、日本人における臨床エビデンスの必要性を、改めて再認識しました。

今回の留学で、日々、貴重な経験をしています。残りの留学生生活を有意義に送りたいと思います。



中外製薬

Roche ロシュグループ



Suvenyl

関節機能改善剤
指定医薬品

薬価基準収載

スベニール® ディスポ バイアル

Suvenyl®

ヒアルロン酸ナトリウム関節内注射液

※「効能・効果」、「用法・用量」、「用法・用量に関連する使用上の注意」、「禁忌」、「使用上の注意」等については最新の添付文書をご参照ください。

〔資料請求先〕
製造発売元 中外製薬株式会社
〒104-8301 東京都中央区京橋2-1-9

GARN 学会記**GARNは、ガンのミーティング？
それともリウマチのミーティング？**

聖マリアンナ医科大学 難病治療研究センター ゲノム医科学研究部門教授 **中島 利博**

2004年9月20日から22日、カナダ モントリオールで第4回 GARNミーティングが行われました。このミーティングは第1回がスイス（2002.04.04-07、ルツェルン、議長：Dr. S. Gay）、第2回が米国（2002.09.26-29、ダラム、議長：Dr. S. Pisetsky）、そして第3回が宮崎市（2003.09.14-17、議長：西岡久寿樹先生）にて行われました。

本会は、リウマチ性疾患の基礎研究から臨床研究まで広範囲にわたる先端的な研究者約100名を一同に会し、完全にクローズドな場で、いわゆるサミットのような形で行うということを目的としています。いわばGordon ConferenceもしくはCold Spring Harborのリウマチ版といえましょう。例えば、軟骨のリプレースメントをどうしたらいいのであろうかといった最先端の基礎研究から、再生医学、再生医療的な運用といった臨床の応用研究に至るまで、非常に広範なトピックスについて熱い討議がなされました。

特に印象的なのは、毎回オープニング・セッションでWHOの方

が骨関節疾患、リウマチ性疾患を制圧することの意義や、広い視野から全世界的にどのように取り組んだらいいか、などの話をされることです。その後は、そのほか私どもも発表しましたリウマチ性疾患の基礎研究、そして今回話題となったレプチン、関節のリプレースメントなどについて討議がなされました。

「GARN（ガーン）」はGlobal Arthritis Research Networkの略称で、日本語のガンの研究会のような印象を持ちますが、リウマチのHot Topicsが毎年討議されています。完全にクローズドのミーティングであり、第5回はスモーレン先生によりオーストリアで来年6月に開催されることが決定いたしました。日本でのSteering Committeeは西岡久寿樹先生（k4nishi@marianna-u.ac.jp）です。この会に参加をご希望される方は、早めにコンタクトをお取りになり、来年オーストリアで会えることを期待しています。

「GARN（ガン）のミーティングでリウマチを」これをキャッチフレーズに、ぜひ皆さんとお会いできることを楽しみにしています。

関節リウマチの EBMに基づく治療ガイドライン発行

近時はEBMに基づく治療が求められています。このガイドラインは厚生労働省の研究班がまとめたもので、平成16年4月発行しました。リウマチ診療医必携の書としてぜひお求め下さい。なお、患者さん等一般向ガイドラインも年度内には書店にて発行される予定です。

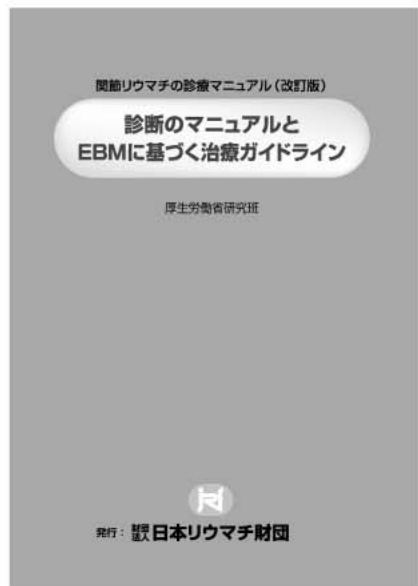
【編集】越智 隆弘、山本 一彦、龍 順之助

【内容】A4版 166頁
診療のマニュアル 41頁
治療のガイドライン 103頁
文献検索資料 他 12頁

【定価】5,250円(含消費税・送料別)
日本リウマチ財団リウマチ登録医
4,700円(含消費税・送料別)

【申込】FAXで日本リウマチ財団へどうぞ
FAX 03-3946-7500

財団法人 日本リウマチ財団 事務局
〒170-0005東京都豊島区南大塚2-39-7 ヤマト大塚ビル5F
TEL 03-3946-3551 FAX 03-3946-7500



(中) 日本リウマチ学会が認定した教育研修会又は講演会

(中) 日本リウマチ学会専門医資格維持施行細則による、当会が認めた教育研修会又は講演会は次の通りです。
 なお、財団法人日本リウマチ財団が認めた登録医単位講演も専門医の単位として認められます。

2004年 12 月の研修会

2004.12. 3 (金)

会の名称 第1回 高知リウマチ・サイトカイン治療研究会
 開催日 2004.12. 3 (金)
 開催場所 高知商工会館 (高知市)
 単 位 1
 責任者 (代表) 高知大学医学部附属病院 整形外科
 教授 谷 俊一
 認定講演時間 20:00 - 21:00
 演 題 「RAにおけるTNF阻害療法の現状と将来展望」
 講 師 埼玉医科大学総合医療センター 第二内科
 教授 竹内 勤
 問い合わせ先 高知大学医学部 運動機能学教室
 Tel. 088-880-2386

2004.12. 3 (金)

会の名称 第30回 日本関節鏡学会ランチョンセミナー
 開催日 2004.12. 3 (金)
 開催場所 日本教育会館 (千代田区)
 単 位 1
 責任者 (代表) 東京女子医科大学附属第二病院 整形外科
 院長 井上 和彦
 認定講演時間 12:30 - 13:30
 演 題 「RAにおける関節病変の病理学的解析
 - 初期の骨膜病変から骨破壊にいたるまで -」
 講 師 岩手医科大学医学部 第一病理
 教授 澤井高志
 問い合わせ先 東京女子医科大学第二病院 整形外科
 院長 井上 和彦
 Tel. 03-3810-1111 (内線 2311)

2004.12. 3 (金)

会の名称 第30回 日本関節鏡学会ランチョンセミナー
 開催日 2004.12. 3 (金)
 開催場所 日本教育会館 (千代田区)
 単 位 1
 責任者 (代表) 東京女子医科大学附属第二病院 整形外科
 院長 井上 和彦
 認定講演時間 12:10 - 13:10
 演 題 成長期の野球肘障害の現状と対策

講 師 独立行政法人相模原病院 院長 越智 隆弘
 問い合わせ先 参天製薬株式会社 東京・神奈川エリアオフィス
 村上 勝
 Tel. 03-3517-2581

2004.12. 4 (土)

会の名称 第30回 日本関節鏡学会ランチョンセミナー
 開催日 2004.12.4 (土)
 開催場所 日本教育会館 (千代田区)
 3F A会場 (一ツ橋ホール)
 単 位 1
 責任者 (代表) 東京女子医科大学附属第二病院 整形外科
 院長 井上 和彦
 認定講演時間 11:50 - 12:50
 演 題 「関節破壊メカニズム」
 講 師 慶応義塾大学 病理学 教授 岡田 保典
 問い合わせ先 東京女子医科大学附属第二病院
 整形外科 井上 和彦
 Tel. 03-3810-1111

2004.12. 4 (土)

会の名称 第30回 日本関節鏡学会ランチョンセミナー
 開催日 2004.12.4 (土)
 開催場所 日本教育会館 (千代田区) 7F B会場 中会議室
 単 位 1
 責任者 (代表) 東京女子医科大学附属第二病院 整形外科
 院長 井上 和彦
 認定講演時間 11:50 - 12:50
 演 題 「MRIを用いた肘関節運動解析の最近の知見」
 講 師 大阪労災病院 整形外科 関節整形外科
 部長 格谷 義徳
 問い合わせ先 三笠製薬 (株) 東京支店 熊倉 貞雄
 Tel. 03-3994-7698

2004.12. 4 (土)

会の名称 田園調布 玉川地区 骨・関節を語る会
 開催日 2004.12. 4 (土)
 開催場所 高輪プリンスホテル さくらタワー (港区)
 単 位 1
 責任者 (代表) 田園調布中央病院 整形外科部長 手塚 正一
 認定講演時間 17:10 - 18:10

演 題 「関節リウマチ治療の最近のながれ」
 講 師 昭和大学 整形外科 客員教授 並木 脩
 問い合わせ先 田園調布中央病院 整形外科 部長 手塚 正一
 Tel. 03-3721-7121

2004.12.4 (土)

会の名称 第13回 RA症例検討会
 開催日 2004.12.4 (土)
 開催場所 奈良県新公会堂 (奈良市春日野町)
 単 位 1
 責任者(代表) 大西会 大西内科医院 院長 大西 利明
 認定講演時間 16:40 - 17:40
 演 題 「関節リウマチの完全治癒を目指して」
 講 師 大分赤十字病院 リウマチ科 副院長 織部 元廣
 問い合わせ先 ワイス株式会社 京阪神支店 紀和営業所
 速水 英一
 Tel. 06-6203-4591

2004.12.18 (土)

会の名称 第42回 山陰整形外科集談会
 開催日 2004.12.18 (土)
 開催場所 島根県医師会館 (松江市)
 単 位 1
 責任者(代表) 島根大学医学部 教授 内尾 祐司
 認定講演時間 17:30 - 18:30
 演 題 「骨粗鬆症の治癒を目指して
 :量に加えて質的評価の重要性」
 講 師 新潟大学医学部 整形外科学教室
 教授 遠藤 直人
 問い合わせ先 島根大学医学部 整形外科学 高尾 昌人
 Tel. 0853-20-2241

2004.12.18 (土)

会の名称 第3回 大阪リウマチカンファレンス
 開催日 2004.12.18 (土)
 開催場所 千里阪急ホテル (豊中市)
 単 位 2
 責任者(代表) 協和会病院 リウマチセンター センター長 村田 紀和
 時 間 14:50 - 15:50
 演 題 「RAの治療戦略
 生物学的製剤を用いたRAコントロール」
 講 師 松原メイフラワー病院 院長 松原 司
 時 間 16:00 - 17:00
 演 題 「造血幹細胞移植とリウマチ疾患」
 講 師 北海道大学大学院 医学研究科 病態内科学講座
 第二内科 教授 小池 隆夫

問い合わせ先 協和会病院 リウマチセンターセンター長 村田 紀和
 Tel. 06-6339-3455

2005年 1 月の研修会

2005.1.8 (土)

日程変更: 2004.10.30の日程が変更されました。
 会の名称 第8回 新潟リウマチ医の会
 開催日 2005.1.8 (土)
 開催場所 新潟大学医学部 第二講義室 (新潟市)
 単 位 2
 責任者(代表) 長岡赤十字病院 リウマチ科・整形外科
 羽生 忠正
 時間・演題・講師 16:10 - 17:10
 「線維筋痛症の病態と治療」
 長野県厚生連篠ノ井総合病院
 リウマチ膠原病センターリウマチ科 医長 浦野 房三
 17:20 - 18:20
 「EBMに基づく関節リウマチの治療ガイドライン
 -その問題点と使い方-」
 順天堂大学医学部 膠原病内科 助教授 高崎 芳成
 問い合わせ先 参天製薬(株) 医薬事業部
 リウマチマーケティングチーム 中田 智子
 Tel. 06-6321-7068 (内線 8260)

2005.1.13 (木)

会の名称 第3回 長崎骨と関節フォーラム (仮)
 開催日 2005.1.13 (木)
 開催場所 長崎プリンスホテル3F プリンスホール (長崎市)
 単 位 2
 責任者(代表) 長崎大学大学院 整形外科 教授 進藤 裕幸
 演題1 「変形性股関節症の治療と最近の話題」
 講 師 宮崎大学医学部 整形外科 教授 帖佐 悦男
 認定講演時間 19:00 - 20:00
 演題2 「関節リウマチの骨破壊 -病体と治療-」
 講 師 埼玉医科大学 整形外科・脊椎外科 教授 織田 弘美
 認定講演時間 20:00 - 21:00
 問い合わせ先 山之内製薬株式会社 宮崎 浩明
 Tel. 095-827-2893

2005.1.15 (土)

会の名称 瑞穂リウマチ膠原病フォーラム
 開催日 2005.1.15 (土)
 開催場所 名鉄ニューグランドホテル (名古屋市)
 単 位 1

INFORMATION

責任者(代表) 名古屋市立大学大学院 臨床分子内科学(第2内科)
副部長 坂野章吾
演題 「シェーグレン症候群の診断と治療」
講師 藤田保健衛生大学 リウマチ感染症内科
教授 吉田 俊治
認定講演時間 19:00 - 20:00
問い合わせ先 名古屋市立大学大学院 臨床分子内科学(第2内科)
副部長 坂野章吾
Tel. 052-851-5511 (内線 8216)

2005.1.22 (土)

会の名称 上本町整形外科フォーラム
開催日 2005.1.22 (土)
開催場所 大阪赤十字病院 4F講堂 (大阪市)
単位 1
責任者(代表) 大阪赤十字病院 部長 富原 光雄
演題 「肩関節鏡視下手術 - 適応と近年の進歩について」
講師 大阪赤十字病院 整形外科 医師 鈴木 隆
認定講演時間 16:00 - 17:00
問い合わせ先 大阪赤十字病院整形外科 大浦 好一郎
Tel. 06-6774-5111

2005.1.23 (日)

会の名称 第6回 博多リウマチセミナー
開催日 2005.1.23 (日)
開催場所 アクロス福岡 4F 国際会議室 (福岡市)
単位 2
責任者(代表) 医療法人 近藤リウマチ・整形外科クリニック
院長 近藤正一
演題1 「RA頸椎手術療法の進歩」
講師 国立病院機構九州医療センター整形外科
医長 寺田 和正
認定講演時間 14:30 - 15:30
演題2 「RA人工関節の対応年数と再置換の成績」
講師 国立病院機構 九州医療センター リウマチ科
医長 宮原 寿明
認定講演時間 15:30 - 16:30
問い合わせ先 医療法人 近藤リウマチ・整形外科クリニック
院長 近藤 正一
Tel. 092-762-2380

2005.1.29 (土)

会の名称 第6回 整形外科カレントコンセプト
開催日 2005.1.29 (土)
開催場所 フォーシーズンズホテル椿山荘(文京区)
単位 1

責任者(代表) 帝京大学医学部 整形外科 教授 松下 隆
演題 「関節軟骨の構造から見た関節疾患の病態生理」
講師 鳥取大学医学部 運動器学 教授 豊島 良太
認定講演時間 18:30 - 19:30
問い合わせ先 帝京大学医学部 整形外科教室 村上 絹枝
Tel. 03-3964-4097 (内線 1530)

2005年 2 月の研修会

2005.2.5 (土)

会の名称 第18回 日本リハビリテーション医学会 近畿地方会
学術講演会 ならびに専門医・認定医教育研修会
開催日 2005.2.5(土)
開催場所 業業年金会館 (大阪市)
単位 1
責任者(代表) 大阪厚生年金病院 リハビリテーション科
部長 綾田 裕子
演題 「関節リウマチの最近の治療とリハビリテーション」
講師 神戸大学医学部 保健学科 助教授 佐浦 隆一
認定講演時間 16:00 - 17:00
問い合わせ先 大阪厚生年金病院 リハビリテーション科
部長 綾田 裕子
Tel. 06-6441-5451 (内線 2136)

2005.2.11 (金・祝日)

会の名称 第4回 久留米関節セミナー
開催日 2005.2.11 (金・祝)
開催場所 久留米大学筑水会館イベントホール(久留米市)
単位 3
責任者(代表) 久留米大学医療センター 整形外科
教授 樋口富士男
演題1 「関節リウマチの薬物療法の進歩 - 抗リウマチ薬・
生物学的製剤によりブレイクスルーできるか -」
講師 産業医科大学医学部 第一内科学講座
教授 田中 良哉
認定講演時間 8:30 - 9:30
演題2 「骨粗鬆症と関節疾患」
講師 新潟大学大学院・医歯学総合研究所
教授 遠藤 直人
認定講演時間 9:30 - 10:30
演題3 「関節リウマチの運動療法」
講師 広島市立広島市民病院 リハビリテーション科
主任部長 椎野 泰明
認定講演時間 10:40 - 11:40
演題4 「2切開による低侵襲人工股関節置換術」

Two-incision Minimally Invasive
Total Hip Arthroplasty

講師 全南大学校病院 整形外科 教授 尹 擇林
認定講演時間 11:40 - 12:40
問い合わせ先 久留米大学医療センター 整形外科
樋口 富士男・稲員 由紀
Tel. 0942-22-6111 (内線 246) ※午前中

2005.2.18 (金)

会の名称 第63回 福岡リウマチ懇話会
開催日 2005.2.18 (金)
開催場所 三鷹ホール (福岡市)
単位 1
責任者 (代表) 医療法人 近藤リウマチ・整形外科クリニック
院長 近藤正一
演題 「関節リウマチの治療と私たちの知見」
講師 宮崎大学医学部 整形外科教室
教授 帖佐悦男
認定講演時間 20:00 - 21:00
問い合わせ先 医療法人 近藤リウマチ・整形外科クリニック
院長 近藤 正一
Tel. 092-762-2380

2005.2.19 (土)

会の名称 第10回 東海骨・軟骨研究会
開催日 2005.2.19 (土)
開催場所 名古屋ATビル会議室 2F 大会議室 (名古屋市)
単位 2
責任者 (代表) 愛知医科大学 整形外科 教授 佐藤 哲二
演題1 「膝関節痛と軟骨障害に対する私見」
講師 東京医科歯科大学大学院 医歯科学総合研究科
教授 宗田 大
認定講演時間 15:30 - 16:30
演題2 「骨・関節疾患の治療を目指して
ー骨・軟骨代謝の研究よりー」
講師 新潟大学大学院 医歯学総合研究科
教授 遠藤 直人
認定講演時間 16:45 - 17:45
問い合わせ先 旭化成ファーマ株式会社 医薬名古屋支店
学術グループ 中尾 哲二
Tel. 052-251-6503

2005.2.19 (土)

会の名称 第46回 東海膠原病研究会
開催日 2005.2.19 (土)

開催場所 ホテルサンルート名古屋 (名古屋市)
単位 1
責任者 (代表) 豊橋市民病院 リウマチ科 部長 大石 幸由
演題 「関節リウマチのトータルケア」
講師 長野赤十字病院 整形外科 部長 金物 壽久
認定講演時間 17:30 - 18:30
問い合わせ先 旭化成ファーマ株式会社 昆布 恭一
Tel. 052-262-4513

2005.2.19 (土)

会の名称 群馬リハビリテーション医学研究会
開催日 2005.2.19 (土)
開催場所 マーキュリーホテル (前橋市)
単位 1
責任者 (代表) 群馬大学 整形外科 リハビリテーション部
部長 白倉賢二
演題 「関節リウマチのリハビリテーション」
講師 横浜市立大学医学部附属病院 リハビリテーション科
講師 水落 和也
認定講演時間 17:20 - 18:20
問い合わせ先 群馬大学医学部附属病院 リハビリテーション部
桐崎 亮子
Tel. 027-220-7111 (内線 8655)





骨粗鬆症治療剤

薬価基準収載

ボナロン[®]錠 5mg

<アレンドロン酸ナトリウム 水和物 錠>

劇薬・指定医薬品・要指示医薬品 (注意：医師等の処方せん・指示により使用すること)

※ 効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等については、添付文書をご参照ください。

商標 ボナロン/Bonalon[®] is the registered trademark of Merck & Co., Inc., Whitehouse Station, NJ, USA.

製造・販売元

TEIJIN 帝人ファーマ株式会社

資料請求先：学術情報部

〒100-8585 東京都千代田区内幸町2-1-1

BNT027 (KK) 0308改3 2003年8月作成

(中) 日本リウマチ学会『教育施設』一覧

(中) 日本リウマチ学会専門医制度規則第14条により教育施設として認定されている施設は次の356施設(2004年9月1日現在)です。

一連番号	認定番号	認定年度	次回更新年度	施設名	都道府県名
1	1	1989	2007	北海道大学医学部附属病院	北海道
2	81	1990	2005	総合病院北見赤十字病院	"
3	82	1990	2005	札幌医科大学医学部附属病院	"
4	84	1990	2005	勤医協中央病院	"
5	88	1990	2005	市立札幌病院	"
6	216	1995	2007	札幌山の上病院リウマチ膠原病センター	"
7	217	1995	2007	札幌社会保険総合病院	"
8	246	1998	2007	市立釧路総合病院	"
9	335	2001	2007	旭川医科大学附属病院	"
10	354	2002	2005	苫小牧市立総合病院	"
11	398	2004	2007	※国家公務員共済組合連合会斗南病院	"
12	115	1991	2006	青森県立中央病院	青森県
13	116	1991	2006	弘前大学医学部附属病院	"
14	306	2000	2006	医療法人整友会弘前記念病院	"
15	2	1989	2007	岩手医科大学医学部附属病院	岩手県
16	204	1994	2006	独立行政法人国立病院機構盛岡病院	"
17	118	1991	2006	由利組合総合病院	"
18	183	1993	2005	秋田大学医学部附属病院	"
19	273	1999	2005	湖東総合病院	"
20	4	1989	2007	東北厚生年金病院	宮城県
21	5	1989	2007	独立行政法人労働者健康福祉機構東北労災病院	"
22	119	1991	2006	東北大学医学部附属病院	"
23	272	1999	2005	独立行政法人国立病院機構西多賀病院	"
24	307	2000	2006	古川市立病院	"
25	120	1991	2006	山形大学医学部附属病院	山形県
26	308	2000	2006	社会福祉法人恩賜財団済生会山形済生病院	"
27	6	1989	2007	福島県立医科大学医学部附属病院	福島県
28	122	1991	2006	財団法人太田総合病院附属太田西ノ内病院	"
29	153	1992	2007	独立行政法人労働者健康福祉機構福島労災病院	"
30	184	1993	2005	財団法人湯浅報恩会寿泉堂総合病院	"
31	229	1996	2005	社団法人竹田総合病院	"
32	274	1999	2005	福島第一病院	"
33	275	1999	2005	福島県厚生連塩田厚生病院	"
34	309	2000	2006	財団法人大原総合病院	"
35	337	2001	2007	福島赤十字病院	"
36	7	1989	2007	医療法人慈誠会上板橋病院	東京都
37	8	1989	2007	慶應義塾大学病院	"
38	9	1989	2007	独立行政法人国立病院機構東京医療センター	"
39	10	1989	2007	独立行政法人国立病院機構村山医療センター	"
40	11	1989	2007	昭和大学病院	"
41	12	1989	2007	順天堂大学医学部附属順天堂病院	"
42	13	1989	2007	帝京大学医学部附属病院	"
43	14	1989	2007	東京医科歯科大学医学部附属病院	"
44	15	1989	2007	東京医科大学病院	"
45	16	1989	2007	東京女子医科大学附属第二病院	"
46	17	1989	2007	東京女子医科大学附属膠原病リウマチ痛風センター	"
47	18	1989	2007	東京大学医学部附属病院	"
48	19	1989	2007	東京通信病院	"
49	20	1989	2007	東京都立府中病院	"
50	21	1989	2007	東京都老人医療センター	"
51	22	1989	2007	杏林大学医学部附属病院	"
52	23	1989	2007	東京都立大塚病院	"
53	25	1989	2007	日本大学医学部附属板橋病院	"
54	89	1990	2005	国立成育医療センター	"
55	92	1990	2005	東京都立墨東病院	"

INFORMATION

一連番号	認定番号	認定年度	次回更新年度	施設名	都道府県名
56	111	1990	2005	東京慈恵会医科大学附属病院	東京都
57	123	1991	2006	国家公務員等共済組合連合会虎の門病院	〃
58	124	1991	2006	財団法人佐々木研究所附属杏雲堂病院	〃
59	125	1991	2006	東京都立駒込病院	〃
60	126	1991	2006	J R 東京総合病院	〃
61	156	1992	2007	日本大学医学部付属練馬光が丘病院	〃
62	187	1993	2005	河北総合病院	〃
63	245	1997	2006	日本医科大学附属病院	〃
64	276	1999	2005	東邦大学医学部付属大森病院	〃
65	277	1999	2005	東京厚生年金病院	〃
66	314	2000	2006	公立阿伎留病院	〃
67	341	2001	2007	社会福祉法人白十字会東京白十字病院	〃
68	355	2002	2005	東邦大学大橋病院	〃
69	386	2003	2006	国立国際医療センター	〃
70	387	2003	2006	日本赤十字社医療センター病院	〃
71	402	2004	2007	※財団法人日産厚生会玉川病院	〃
72	403	2004	2007	※東京大学医科学研究所附属病院	〃
73	404	2004	2007	※東京都リハビリテーション病院	〃
74	405	2004	2007	※自警会西東京警察病院	〃
75	27	1989	2007	自治医科大学附属病院	栃木県
76	28	1989	2007	獨協医科大学病院	〃
77	399	2004	2007	※独立行政法人国立病院機構宇都宮病院	〃
78	29	1989	2007	千葉大学医学部附属病院	千葉県
79	75	1990	2005	千葉リハビリテーションセンター	〃
80	249	1998	2007	独立行政法人国立病院機構下志津病院	〃
81	297	1997	2006	東邦大学附属佐倉病院	〃
82	313	2000	2006	国保松戸市立病院	〃
83	385	2003	2006	千葉県済生会習志野病院	〃
84	406	2004	2007	※独立行政法人国立病院機構千葉東病院	〃
85	30	1989	2007	埼玉医科大学総合医療センター	埼玉県
86	31	1989	2007	埼玉医科大学病院	〃
87	32	1989	2007	防衛医科大学校病院	〃
88	85	1990	2005	さいたま赤十字病院	〃
89	186	1993	2005	さいたま市立病院	〃
90	205	1994	2006	春日部秀和病院	〃
91	311	2000	2006	川口工業総合病院	〃
92	339	2001	2007	埼玉社会保険病院	〃
93	340	2001	2007	深谷赤十字病院	〃
94	358	2002	2005	特定医療法人社団新都市医療研究会〔関越〕会関越病院	〃
95	359	2002	2005	医療法人藤和会藤間病院	〃
96	400	2004	2007	※埼玉県総合リハビリテーションセンター	〃
97	401	2004	2007	※自治医科大学附属大宮医療センター	〃
98	130	1991	2006	筑波大学附属病院	茨城県
99	231	1996	2005	日立製作所多賀総合病院	〃
100	310	2000	2006	東京医科大学霞ヶ浦病院	〃
101	338	2001	2007	財団法人筑波麗仁会筑波学園病院	〃
102	356	2002	2005	社会福祉法人白十字会白十字総合病院	〃
103	87	1990	2005	医療法人社団三恩会東邦病院	群馬県
104	90	1990	2005	前橋赤十字病院	〃
105	129	1991	2006	医療法人井上病院	〃
106	185	1993	2005	群馬大学医学部附属病院	〃
107	232	1996	2005	財団法人老年病研究所附属病院	〃
108	247	1998	2007	医療法人社団日高会日高病院	〃
109	357	2002	2005	医療法人社団東郷会恵愛堂病院	〃
110	384	2003	2006	医療法人相生会わかば病院	〃
111	33	1989	2007	厚木市立病院	神奈川県
112	34	1989	2007	川崎市立川崎病院	〃
113	35	1989	2007	北里大学病院	〃
114	36	1989	2007	北里大学東病院	〃
115	37	1989	2007	独立行政法人国立病院機構相模原病院	〃
116	39	1989	2007	聖マリアンナ医科大学病院	〃

一連番号	認定番号	認定年度	次回更新年度	施設名	都道府県名
117	40	1989	2007	聖マリアンナ医科大学東横病院	神奈川県
118	41	1989	2007	東海大学医学部附属病院	〃
119	42	1989	2007	横浜市立大学医学部附属病院	〃
120	94	1990	2005	昭和大学藤が丘病院	〃
121	95	1990	2005	湯河原厚生年金病院	〃
122	157	1992	2007	藤沢市民病院	〃
123	158	1992	2007	横浜市立大学医学部附属市民総合医療センター	〃
124	159	1992	2007	帝京大学医学部附属溝口病院	〃
125	189	1993	2005	湘南鎌倉総合病院	〃
126	221	1995	2007	川崎市立井田病院	〃
127	252	1998	2007	横浜市立市民病院	〃
128	298	1997	2006	海老名総合病院人工関節リウマチセンター	〃
129	278	1999	2005	独立行政法人労働者健康福祉機構横浜労災病院	〃
130	315	2000	2006	特定医療法人(社団)新都市医療研究会君津会南大和病院	〃
131	316	2000	2006	国家公務員共済組合連合会横浜南共済病院	〃
132	342	2001	2007	横浜船員保険病院	〃
133	360	2002	2005	国家公務員共済組合連合会横浜栄共済病院	〃
134	361	2002	2005	医療法人社団康心会湘南東部総合病院	〃
135	362	2002	2005	昭和大学藤が丘リハビリテーション病院	〃
136	363	2002	2005	社会福祉法人聖母訪問会総合病院聖ヨゼフ病院	〃
137	364	2002	2005	聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院	〃
138	388	2003	2006	済生会神奈川県病院	〃
139	389	2003	2006	三浦市立病院	〃
140	407	2004	2007	※独立行政法人国立病院機構神奈川病院	〃
141	408	2004	2007	※横須賀市立うわまち病院	〃
142	409	2004	2007	※横浜総合病院リウマチ・関節センター	〃
143	43	1989	2007	山梨大学医学部附属病院	山梨県
144	44	1989	2007	市立伊東市民病院	静岡県
145	45	1989	2007	中伊豆温泉病院	〃
146	96	1990	2005	順天堂大学医学部附属順天堂伊豆長岡病院	〃
147	134	1991	2006	浜松医科大学医学部附属病院	〃
148	190	1993	2005	磐田市立総合病院	〃
149	192	1993	2005	社会福祉法人聖隷福祉事業団聖隷浜松病院	〃
150	222	1995	2007	総合病院静岡厚生病院	〃
151	279	1999	2005	社会福祉法人聖隷福祉事業団聖隷三方原病院	〃
152	320	2000	2006	藤枝市立総合病院	〃
153	366	2002	2005	静岡赤十字病院	〃
154	367	2002	2005	静岡リウマチ整形外科リハビリ病院	〃
155	393	2003	2006	焼津甲賀病院	〃
156	414	2004	2007	※県西部浜松医療センター	〃
157	415	2004	2007	※静岡県立総合病院	〃
158	97	1990	2005	長野県厚生農業協同組合連合会篠ノ井病院	長野県
159	160	1992	2007	長野県厚生農業協同組合連合会長野松代総合病院	〃
160	161	1992	2007	小諸厚生総合病院	〃
161	299	1997	2006	長野赤十字病院	〃
162	318	2000	2006	飯田市立病院	〃
163	343	2001	2007	信州大学医学部附属病院	〃
164	410	2004	2007	※医療法人抱生会丸の内病院リウマチセンター	〃
165	112	1990	2005	新潟県立瀬波病院	新潟県
166	113	1990	2005	新潟大学医学部附属病院	〃
167	133	1991	2006	新潟県立中央病院	〃
168	365	2002	2005	長岡赤十字病院	〃
169	166	1992	2007	富山赤十字病院	富山県
170	194	1993	2005	富山医科薬科大学附属病院	〃
171	390	2003	2006	富山県済生会高岡病院	〃
172	80	1990	2005	社団法人石川労働者医療協会金沢リハビリテーション病院リウマチ膠原病センター	石川県
173	86	1990	2005	金沢医科大学病院	〃
174	301	1997	2006	金沢大学医学部附属病院	〃
175	319	2000	2006	石川県済生会金沢病院	〃
176	46	1989	2007	愛知医科大学附属病院	愛知県
177	47	1989	2007	独立行政法人国立病院機構名古屋医療センター	〃

INFORMATION

一連番号	認定番号	認定年度	次回更新年度	施設名	都道府県名
178	48	1989	2007	名古屋市立大学病院	愛知県
179	49	1989	2007	藤田保健衛生大学病院	"
180	103	1990	2005	J A 愛知厚生連安城更生病院	"
181	107	1990	2005	小牧市民病院	"
182	162	1992	2007	トヨタ記念病院	"
183	163	1992	2007	名古屋大学医学部附属病院	"
184	209	1994	2006	独立行政法人労働者健康福祉機構中部労災病院	"
185	210	1994	2006	名古屋市立東市民病院	"
186	234	1996	2005	みなと医療生活協同組合協立総合病院	"
187	235	1996	2005	名古屋市立城北病院	"
188	253	1998	2007	豊橋市民病院	"
189	254	1998	2007	医療法人宝美会総合青山病院	"
190	280	1999	2005	成田記念病院	"
191	281	1999	2005	豊川市民病院	"
192	282	1999	2005	公立陶生病院	"
193	283	1999	2005	一宮市立市民病院	"
194	344	2001	2007	名古屋共立病院	"
195	368	2002	2005	医療法人大雄会総合大雄会病院	"
196	369	2002	2005	名古屋市総合リハビリテーションセンター	"
197	416	2004	2007	※医療法人豊田会刈谷総合病院	"
198	417	2004	2007	※名古屋市立守山市民病院	"
199	418	2004	2007	※半田市立半田病院	"
200	83	1990	2005	鈴鹿中央総合病院	三重県
201	135	1991	2006	山田赤十字病院	"
202	419	2004	2007	※独立行政法人国立病院機構三重中央医療センター	"
203	52	1989	2007	福井大学医学部附属病院	福井県
204	110	1990	2005	福井総合病院	"
205	411	2004	2007	※独立行政法人国立病院機構あわら病院	"
206	412	2004	2007	※福井県済生会病院	"
207	50	1989	2007	朝日大学附属村上記念病院	岐阜県
208	193	1993	2005	岐阜大学医学部附属病院	"
209	391	2003	2006	岐阜県立多治見病院	"
210	392	2003	2006	医療法人社団登豊会近石病院	"
211	413	2004	2007	※社団医療法人かなめ会山内ホスピタル	"
212	53	1989	2007	京都大学医学部附属病院	京都府
213	54	1989	2007	京都府立医科大学附属病院	"
214	104	1990	2005	京都第二赤十字病院	"
215	421	2004	2007	※大原記念病院	"
216	422	2004	2007	※京都第一赤十字病院	"
217	56	1996	2005	独立行政法人労働者健康福祉機構大阪労災病院	大阪府
218	57	1989	2007	関西医科大学附属病院	"
219	58	1989	2007	近畿大学医学部附属病院	"
220	59	1989	2007	独立行政法人国立病院機構大阪南医療センター	"
221	102	1990	2005	医療法人行岡医学研究会行岡病院	"
222	105	1990	2005	大阪大学医学部附属病院	"
223	137	1991	2006	関西電力病院	"
224	138	1991	2006	N T T 西日本大阪病院	"
225	139	1991	2006	大阪市立大学医学部附属病院	"
226	140	1991	2006	大阪医科大学附属病院	"
227	167	1992	2007	淀川キリスト教病院	"
228	211	2002	2005	星ヶ丘厚生年金病院	"
229	236	1996	2005	医療法人早石会早石病院	"
230	237	1996	2005	大阪赤十字病院	"
231	256	1998	2007	大阪府立急性期・総合医療センター	"
232	257	1998	2007	ベルランド総合病院	"
233	258	1998	2007	高槻赤十字病院	"
234	284	1999	2005	大阪府済生会中津病院	"
235	285	1999	2005	財団法人田附興風会北野病院	"
236	286	1999	2005	医療法人相愛会相原第二病院	"
237	288	1999	2005	近畿大学医学部堺病院	"
238	289	1999	2005	日野病院	"

一連番号	認定番号	認定年度	次回更新年度	施設名	都道府県名
239	323	2000	2006	医療法人祐生会みどりヶ丘病院	大阪府
240	325	2000	2006	大阪厚生年金病院	"
241	326	2000	2006	市立枚方市民病院	"
242	370	2002	2005	特定医療法人きつこう会多根総合病院	"
243	394	2003	2006	大阪府済生会富田林病院	"
244	395	2003	2006	堺温心会病院	"
245	396	2003	2006	財団法人日本生命済生会付属日生病院	"
246	423	2004	2007	※医療法人交詢医会大阪リハビリテーション病院	"
247	424	2004	2007	※医療法人協和会協和会病院	"
248	425	2004	2007	※特定医療法人三和会永山病院	"
249	426	2004	2007	※錦秀会阪和住吉総合病院	"
250	60	1989	2007	国立大学法人滋賀医科大学医学部附属病院	滋賀県
251	61	1989	2007	神戸大学医学部附属病院	兵庫県
252	62	1989	2007	財団法人甲南病院加古川病院	"
253	63	1989	2007	兵庫医科大学病院	"
254	238	1996	2005	姫路赤十字病院	"
255	259	1998	2007	独立行政法人労働者健康福祉機構関西労災病院	"
256	260	1998	2007	三木市立三木市民病院	"
257	261	1998	2007	神戸掖済会病院	"
258	302	1997	2006	医療法人聖医会佐用中央病院	"
259	327	2000	2006	神戸赤十字病院	"
260	328	2000	2006	財団法人甲南病院六甲アイランド病院	"
261	329	2000	2006	神戸市立西市民病院	"
262	347	2001	2007	公立学校共済組合近畿中央病院	"
263	372	2002	2005	医療法人社団新日鐵広畑病院	"
264	373	2002	2005	兵庫県立淡路病院	"
265	374	2002	2005	姫路愛和病院	"
266	375	2002	2005	松原メイフラワー病院	"
267	420	2004	2007	※神戸市立中央市民病院	"
268	142	1991	2006	奈良県立医科大学附属病院	奈良県
269	330	2000	2006	近畿大学医学部奈良病院	"
270	371	2002	2005	医療法人ひのうえ会樋上病院	"
271	108	1990	2005	和歌山県立医科大学附属病院	和歌山県
272	64	1989	2007	医療法人和香会倉敷広済病院	岡山県
273	109	1990	2005	岡山大学医学部附属病院	"
274	143	1991	2006	総合病院岡山市立市民病院	"
275	171	1992	2007	財団法人倉敷成人病センター	"
276	172	1992	2007	川崎医科大学附属病院	"
277	263	1998	2007	金光病院	"
278	290	1999	2005	倉敷市立児島市民病院	"
279	331	2000	2006	独立行政法人国立病院機構南岡山医療センター	"
280	376	2002	2005	岡山赤十字病院	"
281	377	2002	2005	独立行政法人労働者健康福祉機構岡山労災病院	"
282	397	2003	2006	倉敷中央病院	"
283	101	1990	2007	広島大学病院	広島県
284	196	1993	2005	尾道市立市民病院	"
285	212	1994	2006	東広島記念病院	"
286	239	1996	2005	公立みつぎ総合病院	"
287	264	1998	2007	広島市立広島市民病院	"
288	348	2001	2007	県立広島病院	"
289	349	2001	2007	公立学校共済組合中国中央病院	"
290	427	2004	2007	※広島県厚生連JA広島総合病院	"
291	428	2004	2007	※広島県立身体障害者リハビリテーションセンター	"
292	66	1989	2007	島根大学医学部附属病院	島根県
293	197	1993	2005	玉造厚生年金病院	"
294	67	1989	2007	鳥取大学医学部附属病院	鳥取県
295	262	1998	2007	社団法人鳥取県中部医師会立三朝温泉病院	"
296	378	2002	2005	鳥取赤十字病院	"
297	226	1995	2007	山口大学医学部附属病院	山口県
298	265	1998	2007	宇部協立病院	"
299	332	2000	2006	下関市立中央病院	"

INFORMATION

一連番号	認定番号	認定年度	次回更新年度	施設名	都道府県名
300	351	2001	2007	山口県立中央病院	山口県
301	76	1990	2005	徳島健生病院	徳島県
302	379	2002	2005	徳島大学医学部附属病院	〃
303	173	1992	2007	香川大学医学部附属病院	香川県
304	241	1996	2005	独立行政法人労働者健康福祉機構香川労災病院	〃
305	291	1999	2005	医療法人財団博仁会キナシ大林病院	〃
306	68	1989	2007	愛媛大学医学部附属病院	愛媛県
307	69	1989	2007	道後温泉病院リウマチセンター	〃
308	70	1989	2007	松山赤十字病院リウマチセンター	〃
309	292	1999	2005	医療法人慈生会松山城東病院	〃
310	333	2000	2006	市立宇和島病院	〃
311	227	1995	2007	高知大学医学部附属病院	高知県
312	242	1996	2005	医療法人緑風会海里マリン病院	〃
313	380	2002	2005	独立行政法人国立病院機構高知病院	〃
314	71	2002	2005	久留米大学病院	福岡県
315	78	1990	2005	福岡大学病院	〃
316	144	1991	2006	九州大学医学部附属病院	〃
317	175	1992	2007	独立行政法人労働者健康福祉機構九州労災病院	〃
318	176	1992	2007	産業医科大学病院	〃
319	198	1993	2005	宗像医師会病院	〃
320	199	1993	2005	医療法人弘医会福岡鳥飼病院	〃
321	213	1994	2006	国立病院九州医療センター	〃
322	214	1994	2006	久留米大学医学部附属医療センター	〃
323	228	1995	2007	独立行政法人労働者健康福祉機構門司労災病院	〃
324	266	1998	2007	医療法人社団杏林会林病院	〃
325	381	2002	2005	医療法人雪ノ聖母会聖マリア病院	〃
326	429	2004	2007	※独立行政法人国立病院機構福岡病院	〃
327	145	1991	2006	佐賀大学医学部附属病院	佐賀県
328	200	1993	2005	独立行政法人国立病院機構嬉野医療センター	〃
329	146	1991	2006	長崎大学医学部附属病院	長崎県
330	178	1992	2007	佐世保中央病院リウマチ・膠原病センター	〃
331	267	1998	2007	独立行政法人国立病院機構長崎医療センター	〃
332	294	1999	2005	日本赤十字社長崎原爆病院	〃
333	295	1999	2005	健康保険諫早総合病院	〃
334	334	2000	2006	医療法人後藤会後藤会病院	〃
335	352	2001	2007	対馬いづはら病院	〃
336	91	1990	2005	熊本整形外科病院	熊本県
337	147	1991	2006	熊本大学医学部附属病院	〃
338	179	1992	2007	熊本リハビリテーション病院	〃
339	180	1992	2007	独立行政法人国立病院機構熊本医療センター	〃
340	201	1993	2005	熊本市立熊本市民病院	〃
341	202	1993	2005	医療法人社団寿量会熊本機能病院	〃
342	203	1993	2005	玉名市外四ヶ町病院組合公立玉名中央病院	〃
343	353	2001	2007	熊本赤十字病院	〃
344	430	2004	2007	※医療法人社団黎明会宇賀岳病院	〃
345	431	2004	2007	※山鹿市立病院	〃
346	72	1989	2007	大分大学医学部附属病院	大分県
347	73	1989	2007	九州大学病院別府先進医療センター	〃
348	148	1991	2006	独立行政法人国立病院機構別府医療センター	〃
349	181	1992	2007	大分赤十字病院	〃
350	74	1989	2007	宮崎大学医学部附属病院	宮崎県
351	268	1998	2007	宮崎県立宮崎病院	〃
352	269	1998	2007	医療法人善仁会市民の森病院	〃
353	270	1998	2007	独立行政法人国立病院機構都城病院	〃
354	182	1992	2007	鹿児島赤十字病院リウマチ膠原病センター	鹿児島県
355	215	1994	2006	鹿児島大学医学部附属病院	〃
356	382	2002	2005	医療法人友愛会豊見城中央病院	沖縄県

※は2004年度新規認定教育施設

APLAR Fellowship 2005のご案内

APLARの新事務局長がAPLAR Fellowship 2005を発表した。今回の募集でAPLARは、応募者の中から3名の受賞者に総額1万米ドルを供与する。応募締切は2005年3月31日必着。詳細は、以下の通り。



ASIA PACIFIC LEAGUE OF
ASSOCIATIONS FOR RHEUMATOLOGY (APLAR)
APLAR FELLOWSHIP 2005

This Asia Pacific League of Association for Rheumatology (APLAR) invites applications from science and medical graduates from a developing member country of APLAR for its APLAR FELLOWSHIP. The grant of US\$10,000 is to assist graduates to undertake intensive or advanced study in the research or clinical aspects of either adult or paediatric rheumatology in a rheumatic disease unit in any country within (preferable) or outside the Asia Pacific area for a minimum period of six months. The successful candidate is expected to have a long-term commitment to continue research or clinical work in his / her own country at the conclusion of the Fellowship. The grant is to cover air fares, accommodation and subsistence costs. Three APLAR Fellowship grants are available for the year 2005.

The offer is valid only for:

1. Medical or science graduate of less than 40 years of age.
2. Nationals of countries in the Asia Pacific area.

The following documents need to be enclosed with the application:

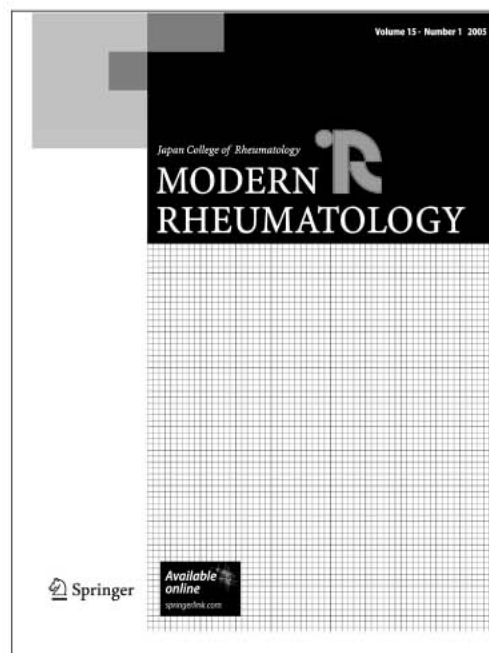
1. Photocopy of birth certificate.
2. Recommendation of the Head of Department where the applicant works at present.
3. Recommendation of the Chairman or President of the national rheumatology society.
4. Curriculum vitae including a recent 2 x 2 inch photograph.
5. A written statement that the institute where the applicant wishes to work is able to accommodate him / her and the willingness of an instructor to supervise the programme.
6. A general outline of the clinical or laboratory course or research work the applicant wishes to undertake.
7. A certificate of fluency in the host country's language.
8. A certificate of ability to write the country's language at tertiary level.
9. A reference of good standing from the Dean of the candidate's medical school / university.

All successful fellows are required to submit a full report to the APLAR Executive Committee upon the completion of the Fellowship. Additionally, they are expected to submit data of the work carried out during the Fellowship for consideration for presentation at a subsequent APLAR Congress of Rheumatology, and for publication as a full scientific article in the APLAR Journal of Rheumatology.

Five copies of the application and other documents need to be received before March 31 2005, by the Secretary General of APLAR (documents sent by facsimile will NOT be accepted):

Dr Kevin Pile
Secretary General of APLAR
Department of Medicine
Bag 8, Institute of Medicine
Townsville Hospital
PO Box 670, Townsville
Australia
Tel: 07 47961265
Fax: 07 4796 1261
Email: kevin.pile@jcu.edu.au

(中)日本リウマチ学会の英文誌 (Modern Rheumatology) 投稿・発行規定 (2003年12月1日改訂)



(2005年15-1号からのMR新表紙)

目的と内容

Modern Rheumatologyはリウマチ学および病理学、生理学、臨床免疫学、微生物学、生化学、実験動物学、薬理学等の関連分野におけるオリジナル論文を英文で掲載する。

症例報告および広く読者に関心を持たれるテーマに関する綜説も受け付ける。また、内容が独創的かつ明快で、科学的価値の高い小論文も掲載を考慮する。

LetterはModern Rheumatologyの既掲載論文およびリウマチ学、有限責任中間法人日本リウマチ学会に関する事項に対するコメントに限る。速報は症例または研究上の知見に関するごく短い報告とし、抄録は付けない。

その他の記事も編集委員会の判断により掲載する。

論文は本学会の会員を問わず受け付ける。

年6号発行する。原稿は電子メールで、常時受け付ける。

投稿条件

著者は、提出論文の内容のいかなる部分も未出版であること(ただし、抄録の形式で、または出版物になった講義、解説記事、学位論文の一部は可とする)、また、他の出版物への掲載予定のないことを誓約しなければならない。他の著作物からの直接引用や図表を含めざるをえない場合には、それらの著者と著作権保持者からの英文での使用許可を提出論文に添付する。

提出論文が査読後受理された場合、その著作権を有限責任中間法人日本リウマチ学会とシュプリンガー・フェアラーク東京株に自動的に譲渡すること、また論文あるいはその一部が言語の如何を問わず、著作権保持者の許可なく他の出版物に掲載されないことを誓約する。

論文の著者及び共著者は、投稿原稿が他で一切発表されていないことを誓約する文書を、全員署名の上、提出する。

原稿形式

原稿は英文で記述し、抄録、本文、謝辞、文献、図説、表を含めA4サイズにダブルスペースで作成する。各パートは改頁し、前記の順に原稿ナンバーをつける。

英文は英語を母国語とする研究者が読んで正確に理解できるものであること。校閲者から英文の改善を求められた場合は、英語を母国語とし関連分野に詳しい者の校閲を受けること。この場合、編集委員会が斡旋する人の校閲を受けることが出来る。ただし、その費用は著者負担とする。

標準的な略語や単位を使用する。略語は初出の際にスペルアウトする。略語は標題では使用しない。薬品や化学物質は一般名を使用する。

掲載論文の原稿は返却しない。

原稿枚数

原著および綜説は、30枚以内とする。(抄録、文献、図表を含む)。症例は、文献を含め20枚以内とする。(抄録、文献、図表を含む)。図表は1点につき原稿1枚と換算する。

刷り上りが16ページを越えた場合には、その費用を請求される。Letterおよび速報は文献を含め4枚以内とし、抄録は付さない。

表紙

表紙には、論文の種類(原著、症例等)、標題、全著者名、

著者の所属とその住所、本文枚数、図説、図表の点数を記載する。さらに、5語までのキーワード(アルファベット順に)、連絡先となる著者名や住所・電話番号・ファックス番号・e-mailアドレス、必要があれば編集委員会へのコメントを記載する。

抄録

原著は、目的、方法、結果、結論を200語以内で簡潔に記述する。

症例、綜説は各々75語、200語以内とする。

抄録中に小見出しは付けない。

本文

実験的な内容の論文については、Introduction, Materials and Methods, Results, Discussionの構成で記述する。

表

表は本文中で引用され、アラビア数字で出現順に番号を付ける。各表は個々に改頁し、簡潔な題をつける。表中で使われている主要な略語を表の脚注で説明する。

図

図は本文中で引用され、アラビア数字で出現順に番号を付ける。各図には簡潔な図説を付ける。図説は本文の後に、図とは別に一括して記載する。

図はコラムの幅(8.6cm)または印刷領域(17.6×23.6cm)に合わせた大きさにする。組み合わせの図は、印刷領域を越えない範囲(図説も考慮する)でまとめる。その際図番号を明記する。

カラー図は受け付けるが、著者はその費用を請求される(カラーページ1ページ目¥110,000、2ページ目以降は1ページ当たり¥60,000)。カラー図はカラー、白黒いずれでの印刷を希望するか表紙に記載する。

図や写真の電子画像送信も論文のオンライン審査用に受け付けるが、著者は掲載通知を受理後、各号に掲載されている出版社の電子投稿のスペックに従い、出版用の電子画像を提出する。

<線画>最終的に印刷を希望する大きさと鮮明であること。文字は明瞭で読みやすくする。

<ハーフトーン図(写真を含む)>適切なコントラストで、的確な角度と最終的な印刷サイズで提出する。

光学顕微鏡写真の場合、図説中に染色法を示す。電子顕微

鏡写真は寸法を示すために写真中にバーを入れ、図説中でそのバーの数値と単位を示す。

文 献

文献はアルファベット順ではなく、本文中での出現順に番号付けする。文献データは、著者の責任をもって、正確に記載する。

私信や未出版データは文献リストに含めるべきではないが、本文中に括弧付きで引用することができる。(例:A, Aoki 1999 personal communication) それが他者のものである場合は、直接の引用を認める著者の署名入り手紙を提出する。

他誌で掲載受理されていて未出版の論文は文献リストに含めることはできるが、括弧付きで“In press”と記載する。

文献リストには、引用該当ページおよび最初の6人までの著者名を、それを超える場合は“et al”を付す。雑誌名はIndex Medicusに準じる。日本語で書かれた論文は、例2の形式による。文献は本文中では上付き文字で引用する；

〔例〕Ames et al. 1 reported...

〔雑誌〕

1. Ames PRJ, Lupoli S, Alves J, Atsumi T, Edwards C, Iannaccone L, et al. The coagulation/fibrinolysis balance in systemic sclerosis: evidence for hematological stress syndrome. *Br J Rheumatol* 1997; 36: 1045-50.

2. Kamihara S. Case of Sjogren syndrome associated with idiopathic monoclonal IgA rheumatoid factor and pyroglobulinemia (in Japanese). *Rinsho Ketsueki*. In press.

〔単行本〕

3. Cassidy JT. Systemic lupus erythematosus, juvenile dermatomyositis, scleroderma, and vasculitis. In: Kelly

WN, Harris ED Jr, Ruddy S, Sledge CB, editors. *Textbook of rheumatology*. 5th ed. Philadelphia: WB Saunders; 1997. p. 1241-64.

〔Proceeding〕

4. Bengtsson S, Solheim BG. Enforcement of data protection, privacy and security in medical informatics. In: Lun KC, Degoulet P, Piemme TE, Rienhoff O, editors. *MEDINFO 92. Proceedings of the 7th World Congress on Medical Informatics*; 1992 Sep 6-10; Geneva, Switzerland. Amsterdam: North-Holland; 1992. p.1561-5.

別 刷

著者には別刷30部を無料で提供する。それ以上の部数が必要な場合には、100部までは50部単位で、100部以上は100部単位で注文を受け付ける。

論文審査

提出された論文は、少なくとも2人のレフリーと編集委員により審査され、必要な場合には言語および内容について訂正を求める。編集委員は論文の採否および掲載順序を決定する。

著者は、論文の訂正と再提出を求められた場合、2ヵ月以内に応じられない場合は、掲載を辞退したものと見なされる。

原稿送付先および問い合わせ先

〒105-0001 東京都港区虎ノ門1丁目1番24

第1オカモトヤビル9階

有限責任中間法人 日本リウマチ学会

Modern Rheumatology編集委員会

Tel 03-5251-5353 Fax 03-5251-5354

Email: MR@ryumachi-jp.com

MR編集委員長からのお知らせ

Modern Rheumatology (MR)は2005年度にNational Library of Medicineへの申請を行うことにより、Impact Factorの取得を目指しているところですが、このたび新表紙としてブラック基調のノートブック型デザインを2005年15-1号から採用することにしました。

MR編集委員長からのお願い

有限責任中間法人日本リウマチ学会の英文誌Modern Rheumatology (MR)は、インパクトファクターをつけることを目指しています。紙媒体ではなかなか引用されにくい状況を考慮いたしまして、過去5年間に掲載されたMRへの論文abstractsを全て学会ホームページに掲載いたしました。

学会ホームページのトップ頁にある「会員の頁」をクリックして、「会員の頁」に入ります。「学会誌・刊行物」をクリックしますと、「Modern Rheumatology」のバックナンバーの一覧と各年のkey-words indexとauthors index一覧をご覧いただけますので、論文を書く際は出来る限り、Modern Rheumatologyから引用していただくよう会員の皆様をお願い申し上げます。

Modern Rheumatology 編集委員長 宮坂信之



●情報化委員会 澤井高志(担当理事)
天野宏一(ニュースレター委員長)/(委員) 諏訪 昭・中島亜矢子・田中真希

ニュースレター 2004年・第4号 発行日2004年12月15日

発行者 有限責任中間法人 日本リウマチ学会
〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-1-24 オカモトヤビル9F
TEL.03-5251-5353 FAX.03-5251-5354

E-mail gakkaim@ryumachi-jp.com URL http://www.ryumachi-jp.com

デザイン・制作 クリエイトM2 〒101-0065 東京都千代田区西神田2-7-5

TEL.03-5215-6560 FAX.03-5215-6560 E-mail creat-m2@sea.plala.or.jp

印刷社 山下印刷(有) 〒105-0003 東京都港区西新橋1-21-4

TEL.03-3591-1025 FAX.03-3591-0846

※本書の無断複写、複製及び転載を禁じます。

血清中の抗ガラクトース欠損IgG抗体測定用医薬品

[検体検査実施料収載]

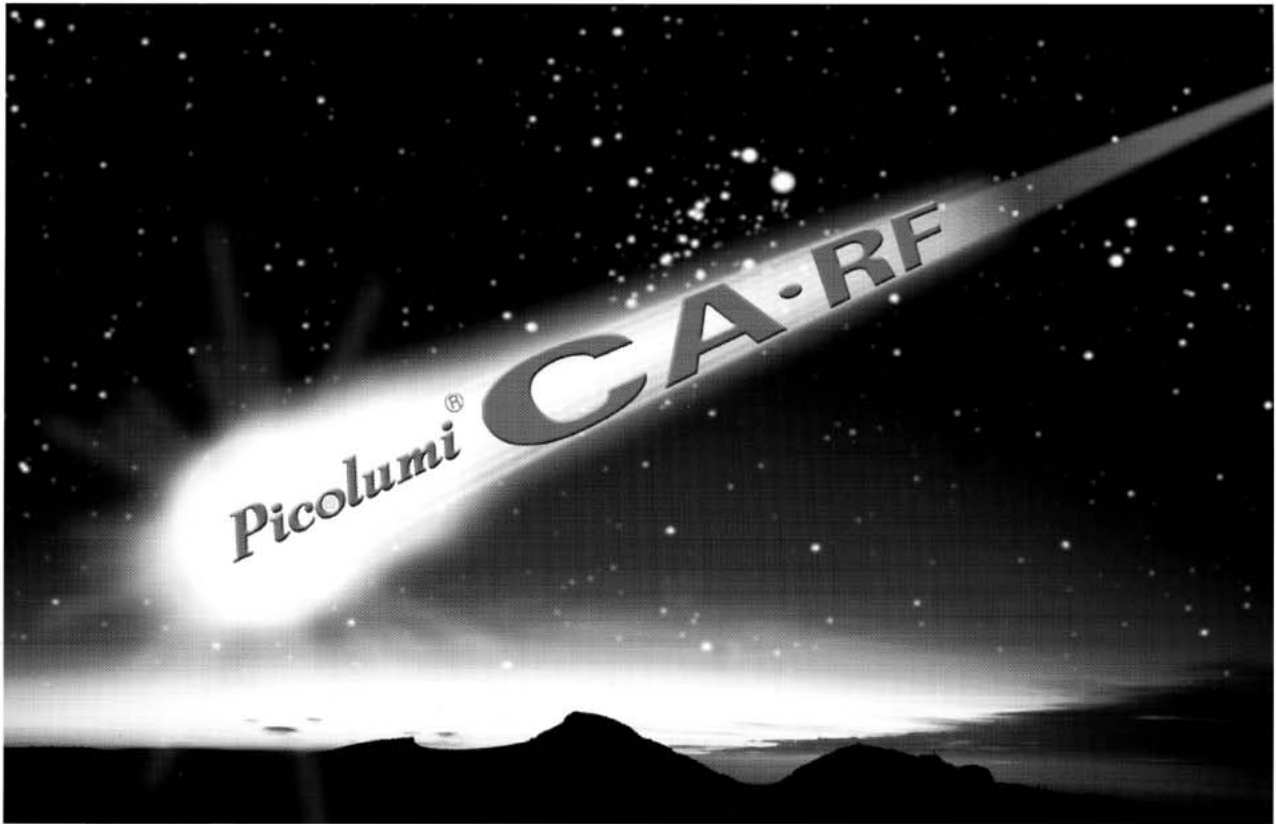
日本標準商品分類番号 877449

ピコルミ[®] CA・RF

体外診断用医薬品

承認番号 21100AMZ00670000

〈電気化学発光免疫測定法—ECLIA法〉



RAの早期診断補助に

【特性】

- 1 早期RA患者において、従来のリウマトイド因子(RF)測定法に比較し、優れた陽性率です。
- 2 従来のRF測定法で陰性のセロネガティブRA患者でも陽性率が高く有用です。
- 3 RA患者の症状改善、悪化に伴い従来法に比べて測定値が有意に変動します。
- 4 ピコルミCA・RFは自動測定が可能であり、広い測定レンジ(1~500AU/mL)を短い時間(反応時間約20分)で測定できます。
- 5 ピコルミCA・RFはエイテストCA・RF(EIA法)と良く相関します。

※効能・効果、操作法、使用上の注意については添付文書をご参照下さい。

製造発売元



三光純薬株式会社
東京都千代田区岩本町1-10-6

提携



エーザイ株式会社
東京都文京区小石川4-6-10

[検体検査実施料収載]

日本標準商品分類番号 877449

体外診断用医薬品

承認番号 21100AMZ00542000

間質性肺炎に特異性の高い 血清マーカー

KL-6

血清中シアル化糖鎖抗原KL-6測定用医薬品

ピコルミ[®] KL-6 Picolumi[®] KL-6

〈電気化学発光免疫測定法〉


特性

1. 間質性肺炎に特異性が高く、他疾患との鑑別診断に優れます。
2. 活動性の間質性肺炎では、非活動性に比べ高値に分布します。
3. 間質性肺炎の症状改善、悪化に伴い有意に測定値が変動します。
4. ピコルミKL-6は自動測定が可能であり、1回の測定で広い測定レンジ(51~10200U/mL)を短い時間(反応時間約20分)で測定できます。
5. ピコルミKL-6は、エイテストKL-6(EIA法)と良く相関します。

※効能・効果、操作法、使用上の注意については添付文書をご参照下さい。



製造発売元  **三光純薬株式会社**
東京都千代田区岩本町1-10-6

提携  **エーザイ株式会社**
東京都文京区小石川4-6-10

関節リウマチ(小関節)の 腫脹・疼痛に

経皮複合消炎剤 **モビラート[®]** 軟膏



〔禁忌(次の患者には使用しないこと)〕

- (1) 出血性血液疾患(血友病、血小板減少症、紫斑病等)のある患者〔本剤に含まれるヘパリン類似物質は血液凝固抑制作用を有し、出血を助長するおそれがある〕
- (2) 僅少な出血でも重大な結果を来すことが予想される患者〔本剤に含まれるヘパリン類似物質は血液凝固抑制作用を有し、出血を助長するおそれがある〕
- (3) サリチル酸に対し過敏症の既往歴のある患者

〔効能・効果〕

変形性関節症(深部関節を除く)、関節リウマチによる小関節の腫脹・疼痛の緩解、筋・筋膜性腰痛、肩関節周囲炎、腱・腱鞘・腱周囲炎、外傷後の疼痛・腫脹・血腫

〔用法・用量〕

通常、1日1～数回適量を塗擦又はガーゼ等にのぼして貼付する。
症状により密封法を行う。

〔使用上の注意〕

1. 副作用

総投与症例3133例中、24例(0.77%)に副作用が認められ、主なものは発赤7件(0.22%)、痒疹7件(0.22%)、発疹7件(0.22%)、皮膚炎7件(0.22%)、皮膚刺激2件(0.06%)等であった。(再評価結果)

その他の副作用

	0.1～5%未満	0.1%未満
過敏症 ^{注)}	発赤、痒疹、発疹、皮膚炎	皮膚刺激等

注) 症状があらわれた場合には使用を中止すること。

2. 適用上の注意

投与部位：潰瘍、びらん面への直接塗擦を避けること。
眼には使用しないこと。

〔包装〕

チューブ：10g、50g、10g×10、25g×10、25g×40
50g×10、50g×40

●詳細は添付文書をご参照ください。

製造販売 **maruho** マルホ株式会社

〔資料請求先〕

大阪市北区中津1-5-22 〒531-0071

(2004.6作成)

Santen



Together

抗リウマチ剤

薬価基準収載

創薬、指定医薬品、要指示医薬品
(注意—医師等の処方せん・指示により使用すること)

新発売

メトレート錠2mg

Metolate[®] tablets 2mg

メトトレキサート錠

■〔効能・効果〕、〔用法・用量〕、〔警告、禁忌を含む使用上の注意〕等については、添付文書をご参照下さい。

抗リウマチ剤

薬価基準収載

創薬、指定医薬品

リマチル錠100mg

Rimatil[®] tablets 100mg

ブシラミン100mg錠

創薬、指定医薬品

リマチル錠50mg

Rimatil[®] tablets 50mg

ブシラミン50mg錠

■〔効能・効果〕、〔用法・用量〕、〔禁忌、原則禁忌を含む使用上の注意〕等については、添付文書をご参照下さい。

抗リウマチ剤

薬価基準収載

指定医薬品、要指示医薬品 (注意—医師等の処方せん・指示により使用すること)

アザルフィジンEN錠

Azulfidine[®] EN tablets

サラソスルファピリジン500mg腸溶錠

指定医薬品、要指示医薬品 (注意—医師等の処方せん・指示により使用すること)

アザルフィジンEN錠250mg

Azulfidine[®] EN tablets 250mg

サラソスルファピリジン250mg腸溶錠

■〔効能・効果〕、〔用法・用量〕、〔禁忌を含む使用上の注意〕等については、添付文書をご参照下さい。

製造発売元
S 参天製薬株式会社
大阪市東淀川区下新庄3-9-19
資料請求先 医薬事業部 送薬情報室

発売元
S 参天製薬株式会社
大阪市東淀川区下新庄3-9-19
資料請求先 医薬事業部 送薬情報室

製造元
Pfizer ファイザー株式会社
東京都渋谷区代々木3-22-7

2004年8月作成
3MTL04H44



持続性抗炎症・鎮痛剤 《ナブメトン錠》

指定医薬品

レリフェン[®]錠
 RELIFEN[®] 400 薬価基準収載

※効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意につきましては添付文書をご参照ください。

製造販売元
株式会社 三和化学研究所
 SKK 本社/名古屋市東区東外堀町35番地 〒461-8631
 ●ホームページ <http://www.skk-net.com/>
 提携 グラクソ・スミスクライン株式会社

資料請求先・問い合わせ先
 コンタクトセンター
 ☎0120-19-8130
受付時間 月～金 9:00～17:00(祝日は除く)

2003年7月作成



経験+誠意=大きな信頼

トータル・プランナー

- 医学専門誌・抄録・プログラム・名簿等の広告
取扱い及び企画作製
- 広告・パンフレット等の企画・制作
- 医学会情報・各種医学関連統計データの提供
- 学術研究論文の投稿代行

Medical Advertising Agency
日本医学広告社

〒102-0071 東京都千代田区富士見2-12-8
 TEL.03-5226-2791(代表) FAX.03-5226-0195
 E-mail: info@j-m-a.co.jp
 URL: <http://www.j-m-a.co.jp>

REMICADE



抗ヒトTNF α モノクローナル抗体製剤

薬価基準収載

レミケード[®]点滴静注用100

REMICADE[®] for I.V. Infusion100

インフリキシマブ(遺伝子組換え)製剤

生物由来製品 劇薬 指定医薬品 要指示医薬品[※] 注) 注意-医師等の処方せん・指示により使用すること

※ 効能・効果、用法・用量、警告・禁忌を含む使用上の注意等については、添付文書をご参照ください。



輸入販売元(資料請求先)

田辺製薬株式会社

〒541-8505 大阪市中央区道修町3丁目2番10号
<http://www.tanabe.co.jp/>

製造元



Centocor

マルバーン/ペンシルバニア州(アメリカ)

2004年6月作成

- 巻頭言 臨床研修必修化とリウマチ専門医 橋本 博史 … 1
- 第49回日本リウマチ学会総会・学術集会
第14回国際リウマチシンポジウム……………2～3
- ACRに参加して
住田 孝之／友尾 孝／若松 英／後藤 大輔／松本 功
伊藤 聡／堤 明人……………4～5
- コラム
東京都のリウマチ性疾患に対する取り組み —— 稲田 進一 …6
- 各地域で活躍中の若手医師の声 —— 西田 圭一郎…7
- 各支部だより 中部支部／近畿支部／中国・四国支部…… 8～9
- 委員会だより 専門医、指導医資格更新のお知らせ／将来構想
委員会の報告／編集委員会の報告／選挙管理委員会からのお知らせ／
国際委員会の報告 …………… 10～11
- APLAR大会参加報告 天野 宏一／田中 真希…12～13
- 海外留学中の会員だより 益田 郁子／梶山 浩…14～15
- GARN学会記
GARNは、ガンのミーティング？ それともリウマチのミーティング？
中島利博…17
- お知らせ……………18～29
(中)日本リウマチ学会が認定した教育研修会又は講演会／
(中)日本リウマチ学会『教育施設』一覧／APLAR Fellowship
2005のご案内
- 英文学会誌 Modern Rheumatology (MR) 投稿・発行規定…30・31
- MR編集委員長からのお知らせ&お願い —— 宮坂 信之…31

有限責任中間法人

日本リウマチ学会

発行者／有限責任中間法人 日本リウマチ学会

〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-1-24 オカモトヤビル9F

TEL.03-5251-5353 FAX.03-5251-5354

E-mail gakkaim@ryumachi-jp.com URL <http://www.ryumachi-jp.com>